



平成26年度

年報 第29号

福島県立博物館

# 年報発刊に 寄せて



東日本大震災という未曾有の出来事は、わたしたちの社会を、とても深いところから変容させようとしています。いまだに震災以外のことには、思いや関心を向ける余裕がありません。とりわけ福島県の場合には、地震や津波の上に原発事故が重なったために、混乱には計り知れないものがあります。

生きることや暮らすことこそが、誰しもにとって主要なテーマとならざるをえないような状況のなかで、文化や芸術などは後回しにされがちです。そうした困難な状況のなかで、福島の文化にかかわる者たちは何をなすうのか。それが深刻に問われています。とりわけ、福島県立博物館を運営するわたしたちに求められている役割とは何か。たとえば、それがどれほどささやかな役割であるにせよ、真すぐに問われ、引き受けられねばならないと感じています。

原発事故の巨大な影のもとで、文化や芸術の果たすべき役割を問い続けることが、わたしたちに課せられた責務となりました。福島というアイデンティティが、根底から揺さぶられています。日常の暮らしや生業を営むことが許されないエリアが、広大に生まれてしまったという現実があります。その地からの避難を強いられた人々の記憶を、いかに未来へと繋いでゆくのか。博物館はそうした問いに回答するためにも、新たなステージへと踏み出さねばならないのです。

県立博物館のリニューアルという差し迫りつつある課題を前にして、あらためて足場を固めることが必要になったと感じています。博物館とは何者でありえるのか。博物館としての使命や役割といったものを問い続けなければなりません。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

# トピックス

## 発掘ガールが大活躍！

### 特集展「発掘ガール～郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」

平成24年度冬の特集展として「発掘ガール～郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」を開催した。

今回の展示は、福島県立博物館の表面調査によって確認された笹山原No.16遺跡（会津若松市）の発掘調査を2001年以来実施してきている郡山女子大学短期大学部文化学科と共同で開催した。

これまでの発掘調査により後期旧石器時代をはじめ、縄文時代や平安時代の会津地方を考える上で貴重な発見が続いており、実際に発掘調査を行った学生が調査成果に関する展示から解説活動までに携わった。

調査に携わった大学生による展示解説会は実際の発掘調査をイメージできるような臨場感のあるもので、これまでの展示会とは違った雰囲気であったと来館者に好評であった。

今回の展示は、企画立案から展示解説まで展示全体を通して学生と共同で準備を進めながら実施したもので、博物館と大学等の研究教育機関との新たな連携の姿として注目される取り組みであった。



特集展「発掘ガール」縄文クッキー



特集展「発掘ガール」展示作業

# 目 次

年報発刊に寄せて	
トピックス	
福島県立博物館の使命	1
I 事業の概要	6
1. 資料収集事業	6
(1) 収集展示委員会	6
(2) 受贈・受託	6
(3) 購入	6
2. 保存管理事業	7
(1) 資料の収蔵	7
(2) 登録・整理	8
(3) 貸出	9
(4) 保存	10
3. 展示事業	11
(1) 常設展示	11
(2) 企画展示	14
(3) 特集展	20
(4) 移動展	23
(5) 指定文化財の公開	24
(6) 展示解説	24
(7) 体験学習室	25
(8) 博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト	26
4. 調査研究事業	27
(1) 展示資料調査研究	27
(2) その他の調査研究事業	28
(3) 職員の研究活動	28
5. 教育普及事業	32
(1) 講座・講演会	32
(2) 学校・文化施設との連携	38
(3) 生涯学習・研究支援	43
(4) 博物館友の会活動への支援	44
6. 広報公聴活動および出版事業	46
(1) 広報活動	46
(2) 公聴活動	49
(3) 出版事業	49
7. 東日本大震災からの復興支援	50
(1) 文化財レスキュー	50
(2) ふくしま応援ミュージアムイベント	52
(3) 復興応援パートナー事業	53
(4) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト	53
8. 連携事業	59
(1) 磐梯山ジオパーク推進事業	59
(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	60
(3) ふくしま震災遺産保全プロジェクト	62

II	管理運営	64
	1. 組織・職員	64
	2. 予 算	65
	3. 運営協議会の開催	66
	(1) 福島県立博物館運営協議会	66
III	利用状況	67
	1. 入館者統計	67
	(1) 平成26年度入館者統計	67
	(2) 入館者の推移	68
	(3) 企画展入館者統計	70
	2. 出版物販売	73
IV	法 規	75
	福島県立博物館条例	75
	福島県立博物館運営協議会条例	76
	福島県立博物館条例施行規則	76
	福島県立博物館組織規則	79
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	80
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	80
	福島県立博物館資料所在調査要領	80
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	81
	福島県立博物館友の会規約	81
V	施設の概要	83
	1. 建築概要	83
	2. 設 備	83
	3. 平面図・各室一覧	84
	4. 施設の修理・改築	86
	5. 沿 革	87
VI	利用案内	89

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

## 目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の記録化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

### 1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創り出す手助けをします。

### 2. 出合いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

### 3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

### 4. ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

## 活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

### 【専門機能】

#### 1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

#### 2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

### 3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

## 【交流機能】

### 4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

### 5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

### 6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

### 7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

### 8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

## 【運営機能】

### 9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

### 10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

### 11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

## 【震災からの復興支援】

### 12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

### 13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

### 14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

## 福島県立博物館 第2期中期目標

目標年度：平成30年度

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの5年間で達成するための第2期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね9万人を目指し努力します。

平成26年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価しましたので、年報やホームページなどで公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者みなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (目標)	平成28年度 (目標)	平成29年度 (目標)	平成30年度 (目標)
利用者数	109,838	63,739	90,000	90,000	90,000	90,000
累計利用者数	4,325,720	4,389,459	4,479,459	4,569,459	4,659,459	4,749,459

平成26年度利用者数 63,739人 目標を達成できませんでした。

達成度の記入方法 ○：達成 ○：ほぼ達成 △：一部達成 ×：達成できず

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	26年度評価指標	26年度実績	達成度
専 門 機 能	1. 地域の文化遺産の収集と継承	①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。	5年間で収蔵資料5,000件の整理登録達成	各分野の整理計画に基づき実施。5分野合計で1,000件の整理・登録	考古：15件、民俗：0件、歴史：26件、美術：1件、自然：614件、合計：656件。各分野における文化財レスキュー・震災遺産調査・収集等の業務超過により、収蔵資料の整理・登録に十分な時間を割けなかった。	△
		②二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収蔵図書の新規整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。	5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。	既存図書のデータ900件修正	既存図書のデータ249件の修正を行った。前年度の資料管理システム入替による登録業務停止期間に伴い、購入図書・寄贈図書の登録が本年度に持ち越されたため、既存図書のデータ修正まで十分に手が回らなかった。	△
		③博物館資料に関する情報の公開	平成25年度において資料管理システムの更新が完了したので、収蔵資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。	5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。	5分野合計で5,000件のデータをインターネットで公開する。	インターネット上での公開を試験的に開始した。考古：453件、民俗：17件、歴史：3,499件、美術：23件、自然：3,724件、合計：7,716件。目標件数を上回ったが、分野ごとの達成度に偏りが生じている。	◎
		④資料の安全な保存	収蔵資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。	資料の新たな収蔵場所を確保する。	収蔵庫内の整理を計画的に進める。	収蔵庫内の清掃、平箱の再配置等の整理を進めた。また第2収蔵庫の収蔵棚増設の可能性について検討し、業者より参考見積および棚配置図面の提案を得た。	◎
		⑤新たな視点に立ったIPM(総合的有害生物管理)の導入	資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。	IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。	他館のIPMの状況を調査し、収蔵庫の定期清掃計画の試案を作成する。	他館のIPMの状況を参考に、当館の収蔵庫の定期清掃計画の試案を作成した。	○
	2. 最新の研究による資料価値の発見	①連携した研究活動の推進	研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。	共同研究の継続実施と研究成果の公開	さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。	外部機関との共同研究として、保存分野の展示室環境に関する研究、民俗分野の個人調査資料に関する研究などを進めたが、成果の公開までには至らなかった。	△
		②多様な外部資金の確保	調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成金の導入など新たな財源の確保を図る。	調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。	調査研究活動などを進めるための助成金等、外部資金確保に向けた情報収集を行う。	外部資金確保の情報収集は特段行わなかった。	×
	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	①リニューアルの推進	次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。	博物館リニューアル基本計画の策定	新設館やリニューアルを行った博物館に関するデータを集める。当館の現状把握と課題の抽出を行う。	他館の動向調査アンケート作成が途中で中断したまま進展しなかった。リニューアルに向けての課題抽出についての検討も実施なし。	×
		②誰にでもわかりやすい常設展の展開	学校で学ぶ子供たちがより利用しやすいように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。	すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。	総合展示室における表示の工夫や解説の改善を進めるとともに、外国語による解説の充実に向けた年次計画を策定する。	キャプション改善や音声解説の試行を行った。年次計画の策定はできなかった。	△
		③魅力あふれる企画展・特集展の開催	福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせ、企画展・特集展を計画的に実施する。	バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。	オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施	オリジナル企画として企画展「アイヌの工芸」「みちのくの観音さま」、特集展「磐越西線100年の歩み」「発掘ガール」を実施した。	◎
④来館者とのコミュニケーションを大切にした展示解説の推進		来館者と職員が直接に触れ合い、コミュニケーションを図ることを重視した展示解説を今後も心がける。	きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。	解説員による「やさしい展示解説」や「通し解説」の実施	解説員による「やさしい展示解説」は63回、「通し解説」は39回実施した。	◎	



機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	26年度評価指標	26年度実績	達成度
専門機能	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	⑤継続性のある講座の開催	講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。	次年度へ向けて、魅力的な講座・講演会を企画する。	開催回数は95回。講座は各分野において統一テーマに沿って開催し、企画展「みちのくの観音さま」では関連するタイムリーな講座もを行い、館長講座3回も「震災4年目」にテーマを変更した。	◎
	4. 楽しめて出会いのある空間の創出	①利用者の快適性と利便性の促進	ミュージアムショップを友の会を活用して設置することは困難な状況のため、その運営のあり方をリニューアルに向けた計画案を策定するなかで検討する。	ミュージアムショップの設置を目指す。	ミュージアムショップの運営のあり方について、再検討する。	検討の結果、博物館友の会を活用したミュージアムショップ運営は困難と判断した。担当班を変更して、他の方法を今後検討していく。	×
5. 博物館事業への住民参加		②体験型学習機会の促進	新たな体験学習メニューを開発し、学校団体の選択肢を増やすとともに、内容を充実させる。学校との連携強化を図るため、ワークショップなどの体験型学習を効果的に取り入れたイベントを企画する。	学校との連携を強化し、利活用を容易にする。	新たな体験メニューの開発および体験イベントの内容について検討する。	民俗分野の「紙漉き体験」を新たなメニューに加えた。ゲストティーチャーを積極的に実施。ただし、体験メニューの内容が分野に偏りがある。	○
	交 流	①各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体や各種学会などからの展示会や講演会の開催依頼には、博物館活動の趣旨に沿うことを条件に積極的に対応する。また、共同企画を立ち上げるなど、事業の連携を進める。	共催事業などの受け入れを行う。	共催事業などの開催(10件以上)	申請のあった共催・後援事業は積極的に受け入れた(12回)。ただし本事業申請数が減ったことから、動員数は1500人ほど減少。	○
②ボランティアの受入		資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進するとともに、今後のボランティアのあり方について検討する。	自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月1回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	自然資料整理ボランティアは取蔵資料の整理作業を行った(延べ20日間)。古文書整理ボランティアは月一回程度の活動を継続し歴史資料の整理を進めた。	◎	
機 能	6. 博物館情報の発信と公開	①効果的な広報の展開	外部の各種メディアおよび学校や社会教育施設への情報提供を継続する。また、ホームページによる広報も継続するとともに、新しい広報媒体も活用する。	ホームページによる広報の強化を図るとともに、新しい広報媒体を活用する。	ホームページのアクセス件数の増加を目指す。また、新しい広報媒体の活用に向け、他館の事例など情報を収集する。	ホームページのアクセス件数はNHK大河ドラマ展を開催した前年度を超えることができなかったが、新たに県の公式ツイッターを利用した広報活動を行った。	△
	7. 地域ネットワークの拠点	①市町村の関係機関との連携促進	調査研究・展示・学習支援・広報活動などの場をとおして、県内の社会教育・生涯学習施設などとの連携をさらに促進させて事業を展開する。	県内市町村関係機関との連携事業を計画的に実施する。	移動博物館や県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する(年3回)。	移動展は実施せず。博物館利用指導者講習会は例年通り実施した。公民館へのゲストティーチャーを実施した。各プロジェクトチームにおける県や市町村との連携事業が増加している。※年3回の実施は震災前を踏襲しているが、本庁主催の研修会などが廃止されている。	△
運 営 機 能	8. 新しい観光ニーズへの対応	①観光集客力の回復	東日本大震災以降低迷が続いている学校団体による学習旅行件数を回復させるため、また、新たな地域からの集客数増加を目指すため、県の関係機関や観光事業団体とも連携して、効果的な広報のあり方を検討する。	学習旅行などの観光集客力の回復と新たな地域からの集客数の増加を目指す。	特に学校団体への効果的な広報のあり方について協議する。	学校団体等に向けての年間刊し物案内の送付時期を見直した。	◎
	9. 使命の明示と事業の点検	①使命・目標の策定	使命に基づき、平成30年度を目標年度とした中期目標を作成する。目標はその達成度などから評価・点検を毎年行い、それをもとに事業計画の修正を行うとともに、評価・点検の結果を年報やホームページで公表する。	第2期中期目標に基づいた評価・点検の実施と5年間の総括	第1期中期目標における平成25年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。第2期中期目標を策定し、ホームページで公表する。	第1期中期目標の達成状況と5年間の総括を年報・ホームページで公表した。また、第2期中期目標を策定し、これもホームページで公表した。	◎
運 営 機 能	10. 人材の育成と機能的な組織	②利用者ニーズの把握と対応	運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80%以上達成の維持。	できるだけ多くの機会にアンケート調査を実施し、それらの集計結果を利用者の声として公表する方策について検討する。利用者満足度80%以上を達成する。	アンケートを実施しても、結果の集計・分析や公表などは十分に行わなかった。利用者満足度については、すべて80%以上は達成できなかったが、おおむね70%を超えるものであった。	△
		①学芸員の専門性の重視	各種学会や研修会に積極的に参加し、新しい博物館活動を進めていく上で学芸員に求められる多様な能力の向上に努める。	各種学会や研修会に参加し、その成果を学芸員全体で共有するとともに、博物館業務へも効果的に反映させる。	各種学会や研修会への参加(5回以上)と報告会の開催	学会・研究会への参加は6回。学芸員会議などにおいて館員への報告を行った。	◎

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	26年度評価指標	26年度実績	達成度
運営機能	11. 危機管理	①来館者の安全確保	火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。	防災訓練およびAED研修の年1回実施	不測の事態にも対応できるように、職員全員が自らの役割を自覚して訓練に参加する。	博物館消防計画に基づいて、自衛消防隊を組織し、火元責任者を指定した。また、係る不測の事態を想定した避難訓練も実施するとともに、AED講習会も併せて実施した。	◎
		②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	劣化箇所を把握して適切に修繕する。	多額の費用を要する修繕については26年度内に修繕を実施することはできなかった。ただし、屋根の補修に関し27年度において調査を行い、費用・工法等の検討を行うことになった。また、空調施設のうち、フート弁等についても27年度予算で修繕を行う見込みが立った。	△
震災からの復興支援	12. ふくしまの宝の発掘と保全	①被災文化財等の救出と保全	県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。	博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。	関係機関と連携して、被災地からの文化財レスキュー活動を継続するとともに、新たな視点に立った被災資料収集保全活動を行う。	引き続き「福島県被災文化財等救援本部」等に参画して文化財レスキュー事業を行った。対応日数のべ33日、人数61名。	◎
	13. ふくしまの宝の公開と活用	①救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。	被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。	福島県内で行われた被災資料レスキュー活動を、県内外に広く紹介するための展示コーナーを常設する。	レスキュー活動の展示コーナーの常設はできなかったが、テーマ展「ふるさとの考古資料5 富岡町遺跡探訪」[相馬家の婚礼道具 南相馬市同慶寺所蔵の漆工品]において、救出資料を展示公開した。	△
	14. ふくしまの再生と活性化	①文化資源を活用した各種事業の開催および支援	県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。	館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。	館内外において復興支援を目的とした各種事業を継続して実施する。	復興応援パートナー事業として「ふくしま復興への思いを込めて」[子ども本まつりin福島]というイベントを開催した。	◎

## ●平成26年度総評

本年度は、目標達成を平成30年度に設定した第2期中期目標の1年目である。

- 利用者数については目標を達成できなかった。前年より4万6千人少なく、開館以来最低の数字であった（これまでは平成17年度の81,955人）。前年度は企画展が好調で、大河ドラマ効果などで常設展も増加したため目標を上回ることはできたが、今年度は数年前から続く常設展観覧者数の減少傾向に歯止めがかからず大幅な減少となってしまった。常設展観覧者の伸び悩みについては、原因等を詳しく分析して改善の方策を検討する。
- 重点課題のひとつである「震災からの復興支援」（活動の指針12～14）については、活動指針13以外は目標を達成した。被災文化財等の救出・保全是、原発事故による避難地域に関する活動が、前年に比べて件数は減ったものの、いまだ終息していない。とくに域内の学校や個人資料への個別対応や、救出後の仮保管場所の環境保全のための作業などが続いている。
- もうひとつの重点課題である「博物館リニューアルの具体化」（活動の指針3）については、情報収集の作業などが中断してしまい、目標を達成できなかった。平成27年度からは、館内の組織を改変して「リニューアル検討チーム」を新設し、リニューアルの骨子をまとめることや、ミュージアムショップの検討などを行う予定である。
- 文化庁補助事業として「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」を実施し、また新規に「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を始動させた。これらの事業とともに学校へのゲストティーチャーなど、学芸員が館外へ出て活動することが多くなっている。これらの新たな取り組みにもなって、博物館の使命・中期目標の一部見直し（追加）や評価の方法（利用者の数値化の方法など）の再検討を平成27年度に行う。

# I 事業の概要

## 1. 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

#### ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

#### 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	元東北大学大学院文学研究科教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	元岩手県立博物館学芸部長	委員
岡田 清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学総合学術博物館教授	委員
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	委員

#### イ. 会議

平成27年3月27日(金)

#### 議題

- ①平成26年度事業の実施状況について
- ②平成27年度事業計画について
- ③平成27年度の企画展等について
- ④その他  
展示室リニューアルに向けた今後の取り組みについて

### (2) 受贈・受託

#### ア. 歴史資料

##### (ア) 受贈

鉄橋工事写真	1件	個人
砲弾	2件	個人
板かるた	1件	個人
スタジオ撮影用大型カメラ	1件	個人
美術資料ほか	41件	個人
小倉百人一首 板かるた	1件	個人
最上三十三所御札集	1件	個人
中村北潮筆 板かるたほか	3件	個人

##### (イ) 受託

本田家文書	1括	個人
薬師寺如来坐像ほか	2件	個人
会津暦 等	43件	個人

#### イ. 美術資料

##### (ア) 受贈

掛軸	2件	個人
萩の宮蒔絵手箱ほか	37件	個人

##### (イ) 受託

遠藤香邨筆 「富士十二景図屏風」ほか	2件	個人
大野泉祐筆 「朱達磨図」	1件	個人
田楽面「伊邪那伎命」ほか	5件	個人
加藤遠澤筆「鐘馗図」	1件	個人

#### ウ. 民俗資料

##### (ア) 受贈

雛人形	1件	個人
オシンメイサマ	1件	個人
「子安観世音」提灯ほか	2件	個人
謄写版ほか	10件	個人
傘鉾(カサボコ)	2件	個人
枕屏風ほか	2件	個人
座敷旗	1件	個人
雛人形ほか	6件	個人

#### エ. 考古資料

##### (ア) 受贈

岩谷遺跡出土 土星模造品ほか	2件	個人
----------------	----	----

##### (イ) 受託

元屋敷遺跡出土資料	6件	三島町教育委員会教育長
古墳時代直刀(刀身・鏢・鏝)ほか	2件	個人

#### オ. 自然資料

##### (ア) 受贈

現生貝類標本ほか	357件	個人
福島県内各地鉱山の鉱石	1件	個人

##### (イ) 受託

三葉虫ほか	27件	双葉町教育委員会教育長
-------	-----	-------------

### (3) 購入

#### ア. 美術資料

竹内澤與筆「山水図」	1件
------------	----

#### イ. 考古資料

江平遺跡出土木簡(レプリカ)	2件
----------------	----

## ウ. 図書資料

## (ア) 一般図書

考古分野13冊、歴史分野55冊、  
民俗分野38冊、自然分野73冊、  
保存分野17冊、その他1冊

計197冊

## (イ) 定期刊行物

## 定期刊行物リスト

(平成27年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	ナショナルジオグラフィック	共通
4	第四紀研究	自然
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通
9	ミュゼ	共通
10	史林	共通
11	史学雑誌	歴史
12	歴史評論	歴史

	定期購読雑誌	分野
13	地方史研究	歴史
14	日本史研究	歴史
15	日本歴史	歴史
16	歴史学研究	歴史
17	仏教芸術	美術
18	美術手帖	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

## 2. 保存管理事業

## (1) 資料の収蔵

## ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、  
現在までの累計を示す。件数は概数であり、  
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

## 収蔵資料数

(平成27年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,396	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,189	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	21,824	書籍・文書資料ほか
美術	6,248	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,101	化石・岩石・鉱物ほか
合計	110,758	

## 収蔵指定文化財一覧 (寄託資料を含む)

(平成27年3月31日現在)

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資 料 名	点数	単位	備 考
1	32	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	1	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	12	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	18	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	8	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	11	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	23	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	14	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	20	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	37	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
11	38	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	19	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
13	3	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
14	25	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	40	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	41	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	2	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	13	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
19	4	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	躯	寄託
20	15	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	躯	寄託
21	9	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	躯	寄託
22	10	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	躯	寄託
23	35	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	30	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	7	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	22	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	26	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	16	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	21	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	44	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	42	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
33	45	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	5	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	27	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	31	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	6	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	47	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	49	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	29	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
42	43	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
43	46	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	34	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	36	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	24	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	17	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂)古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	33	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

## イ. 図書および映像資料

### (ア) 収蔵図書数(平成27年3月31日現在)

考古分野：23,811冊 民俗分野：4,512冊  
 歴史分野：9,753冊 美術分野：3,803冊  
 自然分野：15,997冊 保存分野：1,635冊  
 その他：55,776冊 合計：115,287冊

### (イ) 収蔵映像資料数

(平成27年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

## (2) 登録・整理

### ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製I.B. Museum SaaSを導入した。新システムは、県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、これまで使用してきた資料管理

システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは、データの一括登録や一括修正が可能となるなど機能が向上した。また館内におけるサーバーの設置が不要となり、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となり、サービス機能が向上した。

本年度は、プログラムの初期不良の修正、資料の登録および資料情報の外部公開に関する試験的運用の3点に重点的に対応する方針で使用を開始した。

プログラムの初期不良についてはかなり修正を進めたが、未だに修正完了に至っていない。その原因は、旧システムの膨大な情報項目をすべて完全に移植したため項目の構成が煩雑となり、使用中に初めて発見される書式や登録方法の設定ミス等があるためである。また同様の理由から、項目を再構成しないと登録作業の煩雑さを解決できない部分が生じており、その一部は有償の改修が必要となる。資料の登録および資料情報の外部公開については次項で述べる。

#### イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。本年度は、上で述べた初期不良等を修正しながらの試験的運用となったため、登録資料数は多くなかった。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

資料情報の外部公開については、本年度7,716件を公開して平成26年度中期目標の評価指標を達成したものの、分野により公開数にばらつきがあるほか、公開画面の検索方法に修正すべき点があるなど、課題が生じている。しかしシステムがASP方式であるため実施可能な修正には制限があり、改良には相当の工夫と時間が必要である。

#### 登録資料数 (平成27年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成26年度)	登録資料 (累計)
考古資料類	15	11,649
民俗資料類	0	13,610
歴史資料類	26	36,593
美術工芸品類	1	6,219
自然標本類	614	24,259
合計	656	92,330

#### ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

##### (ア) 自然資料整理

桑原 功 野外調査での協力 金山町5月、10月 各1日

自然史講座「化石をさがそう」での協力 9月 伊達市

星総一郎 自然史標本約600点整理 延べ20日

##### (イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち13名が延べ66日参加し、松崎達夫家文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。終了したのは281点。参加者は穴澤良文、五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣次、鈴木清二、星弘明の諸氏。

#### (3) 貸出

##### ア. 博物館資料

##### 貸出資料一覧

資料名	貸出先	期 間	展覧会名
日新館教授の図	若松城天守閣 郷土博物館	5月15日 ┆ 7月15日 (展示期間)	特集展示 「むかしの会津～教育編」
泉崎村原山1号墳出土埴輪(琴を弾く人)	公益財団法人 郡山市・学び 振興公社	7月12日 ┆ 8月31日 (展示期間)	第1回企画展 「ふくしま埴輪物語」
泉崎村原山1号墳出土埴輪(楯を持つ人)			
泉崎村原山1号墳出土埴輪(円筒)			
泉崎村原山1号墳出土埴輪(朝顔)			
桐蒔絵鼓	新宿歴史博物館	9月13日 ┆ 11月24日 (展示期間)	特別展「高須四兄弟—新宿・荒木町に生まれた幕末維新—」
夕顔蒔絵鼓			
紫檀能尽蒔絵煙草盆			
藤蒔絵提重			
白虎隊自刃図			
錦絵「会津軍記」			
錦絵「会津戦争記聞」			
家訓			
短冊「大君の…」			
書「幾人の…」			

資料名	貸出先	期間	展覧会名
絹本著色飯豊山 山道絵図 紺紙金泥法華経	米沢市上杉博 物館	11月1日 ～ 11月30日	特別展「置賜 の山岳信仰」
カバラミプ (衣服・木綿)	公益財団法人 アイヌ文化振 興・研究推進 機構	9月16日 ～ 12月12日 (貸出期間)	アイヌ工芸品 展「アイヌの 工芸—東北の コレクション を中心に—」 帯広会場
マキリ (刀)			
エムシアツ (刀掛け帯)			
イクパスイ 5点			
以上会津民俗館 寄託			
リイシリ島絵図			
黒曜石			
草鞋			
小刀鞘			
古絵馬 (上宇内 薬師堂奉納品)	磐梯町磐梯山 慧日寺資料館	10月18日 ～ 11月30日	企画展 「祈りの里会 津—霊場とそ の信仰—」
中際遺跡土笛	三島町交流セ ンター山びこ	10月22日 ～ 11月30日 (一時返還)	三島の遺跡展 「—縄文の工 房と戦国山ノ 内氏の城館—」
流廃寺跡出土金 銀象嵌鉄剣	棚倉町立図書 館多目的ホー ル	11月28日 (展示日)	流廃寺跡国史 跡指定記念講 演会現地説明 会特別展示
土津神社告文 (文久二年閏八 月五日付)	茨城県立歴史 館	平成27年 2月7日 ～ 3月22日	特別展Ⅱ 「徳川慶喜」
十二天図 (当館 蔵・恵日寺旧蔵) 旧軸木のうち延 宝三年銘・文政 九年銘	磐梯町磐梯山 慧日寺資料館	平成27年 4月1日 ～ 11月30日	磐梯山慧日寺 資料館常設展
糸車 綿繰機 座繰り (2点) 毛羽取り (2点) 紡毛機 (2点)	からむし工芸 博物館	4月18日 ～ 平成27年 4月5日 (貸出期間)	企画展「繊維 から糸へ」
伝承切り紙 (3点)	多摩美術大学 美術館	6月28日 ～ 9月25日 (貸出期間)	企画展「東北 のオカザリ— 神宿りの紙飾 り—」
刀 (芝居用具) 箱 (芝居用具) 芝居図古絵馬 (月光山旭田寺 寄託)	奥会津博物館	7月25日 ～ 12月10日 (貸出期間)	企画展「会津 の歌舞伎—そ の歴史と民衆 の活力—」

## イ. 写真資料

全99件

歴史：86点      美術：36点      考古：57点  
民俗：なし      自然：3点      計182点

## (4) 保 存

## ア. 防虫作業等

## (ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相(アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月11日～7月10日、11月5日～11月22日の2回にわたり実施した。

## (イ) 燻蒸庫による燻蒸

第1回(7月1日)～第4回(3月24日)まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約589件の燻蒸を実施した。

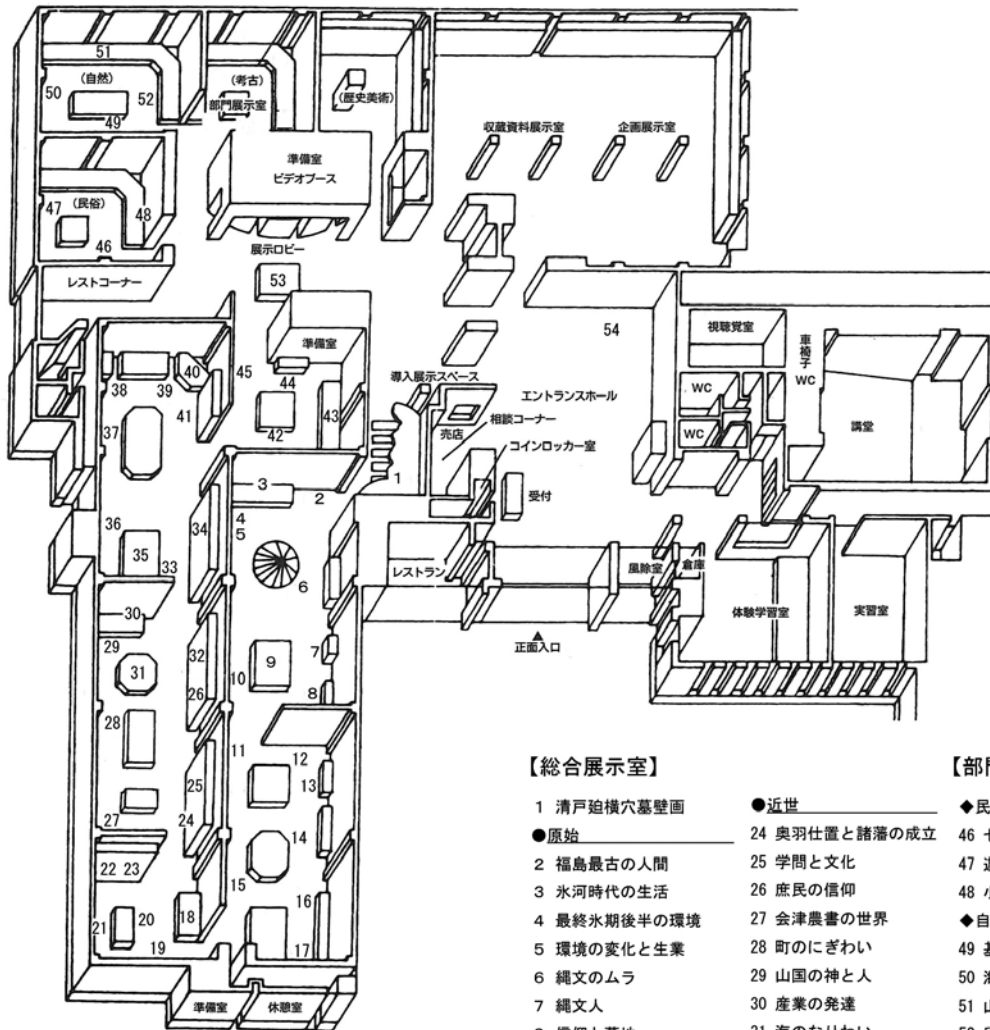
### 3. 展示事業

#### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つ

のテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内において、以下のようなテーマ展・ポイント展を実施している。

#### ア. 展示構成



#### 【総合展示室】

- 1 清戸迫横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 水河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

#### ●近世

- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

#### 【部門展示室】

- ◆民俗（ふくしまの子供の世界）
- 46 七歳まではカミのうち
- 47 遊びをせんとや生まれけむ
- 48 小さな声
- ◆自然（県土の形成）
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古（ふるさとの考古資料）
- ◆歴史・美術（福島的美術）
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台



## イ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が6年目である。全8回実施。

- ① 「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」  
(部門：考古展示室)  
平成25年度より継続～平成26年5月11日(日・祝)
- ② 「写真展「福島を撮る」はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈福島写真美術館プロジェクト〉成果展」(部門：歴史美術展示室)  
平成26年4月15日(火)～5月25日(日)
- ③ 「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」  
(部門：考古展示室)  
平成26年6月17日(火)～平成27年5月10日(日)
- ④ 「おらほの碑」はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈岡部昌生フロッタージュプロジェクト〉成果展(部門：歴史美術展示室)  
平成26年6月7日(土)～7月13日(日)
- ⑤ 「相馬家の婚礼道具—南相馬市同慶寺所蔵の漆工品—」(部門：歴史美術展示室)  
平成26年7月19日(土)～8月24日(日)
- ⑥ 「現代「漆・歴史」考2014」  
(部門：歴史美術展示室)  
平成26年8月30日(土)～10月5日(日)
- ⑦ 「けんぱくの宝2014」(部門：歴史美術展示室)  
平成26年12月20日(土)～平成27年2月1日(日)
- ⑧ 「徹底解剖！会津板かるた」  
(部門：歴史美術展示室)  
平成27年2月7日(土)～3月29日(日)



相馬家の婚礼道具



徹底解剖！会津板かるた



ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪

## ウ. ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が6年目である。全21回実施。

- ① 「安積伊東一族ゆかりの鰐口」  
(総合：中世展示室)  
平成26年4月1日(土)～5月30日(金)
- ② 「喜多方市泉福寺の大日如来像」  
(総合：古代展示室)  
平成26年4月5日(土)～5月6日(火)
- ③ 「老中奉書でみる会津藩の台場警備」  
(総合：近世展示室)  
平成26年4月19日(土)～5月30日(金)
- ④ 「読み解き「戊辰戦記絵巻物」」  
(総合：近現代展示室)  
平成26年4月19日(土)～平成27年2月1日(日)
- ⑤ 「近藤家の婚礼用具」(部門：民俗展示室)  
平成26年5月8日(木)～7月2日(水)
- ⑥ 「描かれた養蚕」(部門：民俗展示室)  
平成26年7月17日(木)～9月3日(水)

- ⑦ 「伝単一連合軍のまいたビラー」  
(総合：近現代展示室)  
平成26年7月18日(金)～8月22日(金)
- ⑧ 「博物館の壁が語る日本列島の誕生」  
(エントランスホール東側)  
平成26年7月19日(土)～8月29日(金)
- ⑨ 「ふくしまの火炎型土器」(総合：原始展示室)  
平成26年7月23日(水)～平成27年3月15日(日)
- ⑩ 「これも弥生土器!？」(総合：原始展示室)  
平成26年7月23日(水)～平成27年3月15日(日)
- ⑪ 「磐梯山とジオパーク」  
(総合：自然と人間展示室)  
平成26年8月21日(木)～9月17日(水)
- ⑫ 「福島を空から眺めてみよう！」  
(総合：近現代展示室)  
平成26年9月13日(土)～11月7日(金)
- ⑬ 「王様の玉飾り」(総合：古代展示室)  
平成26年9月2日(火)～平成27年3月15日(日)
- ⑭ 「約束の音色～聖武と磐麻呂」  
(総合：古代展示室)  
平成26年9月2日(火)～平成27年3月15日(日)
- ⑮ 「広野層の貝類化石」(部門：自然展示室)  
平成26年10月11日(土)～11月20日(木)
- ⑯ 「会津藩校日新館の教育」(総合：近世展示室)  
平成26年10月18日(土)～11月14日(金)
- ⑰ 「桶づくり職人の道具」(部門：民俗展示室)  
平成26年11月6日(木)～12月10日(水)
- ⑱ 「地球黎明期の岩石」(部門：自然展示室)  
平成26年11月21日(金)～12月26日(金)
- ⑲ 「火をめぐる昔の道具～明かりと暖房～」  
(部門：民俗展示室)  
平成26年12月18日(木)～平成27年2月4日(水)
- ⑳ 「火鉢となった版木たち」(総合：近世展示室)  
平成26年12月27日(土)～平成27年1月30日(金)
- ㉑ 「ふくしまの凧」(部門：民俗展示室)  
平成27年2月13日(金)～3月18日(水)



喜多方市泉福寺の大日如来像



地球黎明期の岩石



火をめぐる昔の道具

## (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

### ア. 春の企画展

「写真展 東北一風土・人・暮らし」

#### (ア) 会 期

平成26年4月19日(土)～5月18日(日)

開館日数：26日間

#### (イ) 会 場

福島県立博物館企画展示室

#### (ウ) 入館者数

1,226人

#### (エ) 担当学芸員

美術分野：川延安直・小林めぐみ

#### (オ) 趣 旨

日本の写真評論の第一人者として活躍している宮城県出身の飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある、しかし世代も表現もさまざまな10組の写真家による作品で構成。過去の作品から、現在進行形の作品までを同時に展示し、過去・現在・未来を貫く個性的な写真家の視点を紹介した。

1950～60年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭りなどを追った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、自らの個人史と故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズである。

東日本大震災後、被害のようすは多くのメディアで報道されたが、本展示会は、被害状況や復興のようすをレポートするものではなく、さまざまな年代の、異なる表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を海外の人に伝えることを目指した。

国際交流基金によって企画された本展は、北京・イタリア・オーストラリアなど5年間40都市を巡回し、東北の豊かな自然や独特の祭りのようすを世界に発信している。

今回は一時日本に里帰りする機会に福島県立博物館と岩手県内で公開されることになった。

#### (カ) 展示構成

千葉禎介・小島一郎・芳賀日出男・内藤正

敏・大島洋・林明輝・田附勝・仙台コレクション・津田直・畠山直哉

(キ) 出品点数 10作家、123点

#### (ク) 関連事業

記念対談「縄文の再生「東北一風土・人・暮らし」展を巡って」

講師：飯沢耕太郎（本展監修者・写真評論家）×田附勝（写真家）×赤坂憲雄（福島県立博物館長）

日時：4月19日(土)13時30分～15時

会場：講堂

#### (ケ) 成果と課題

東北をテーマにした総合的写真展は初めて取り扱う展示会であり、また飯沢耕太郎氏の選抜によるきわめて質の高い作品群は東北の魅力を伝えてくれた。海外での日本文化発信のための展示会であったが、作品の一時帰国の際に当館での展示が実現し国際交流基金との連携が生まれたことは成果とできる。

アンケートには、1950年代の懐かしい生活を思い出した、会津で見ることができて良かった、東北が身近になったなどの感想があった。反面、照明・展示・解説への不満も見受けられ、作品の質に展示室がついていない状況がある。

写真展  
福島県立博物館 平成26年度 春の企画展

# 東北一風土・人・暮らし

2014年4月19日(土)～5月18日(日)

日本人写真家たちが見た東北

千葉禎介  
小島一郎  
芳賀日出男  
内藤正敏  
大島洋  
田附勝  
林明輝  
津田直  
仙台コレクション  
畠山直哉

休館日：4/21(月)、4/28(月)、5/7(水)、5/12(月)  
開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)  
観覧料：一般・大学生500円(400円) / 高校生200円(150円) / 小学生100円(80円)  
\* 内は20円以上の送料あり  
キュレーター：飯沢耕太郎(写真評論家) 企画協力：日本写真協会 主催：福島県立博物館 / 国際交流基金

福島県立博物館  
〒961-8501 福島県福島市西町1-25 TEL:0242-28-0000 FAX:0242-28-5388 http://www.gmlmuseum.jp

「写真展 東北一風土・人・暮らし」リーフレット



記念対談



展示風景



展示風景



展示風景

## イ. 夏の企画展

### 「アイヌの工芸

—東北のコレクションを中心に—

#### (ア) 会 期

平成26年7月19日(土)～9月15日(月祝)  
開館日数：52日間

#### (イ) 会 場

福島県立博物館企画展示室

#### (ウ) 入館者数

4,078人

#### (エ) 担当学芸員

歴史分野：阿部綾子 民俗分野：内山大介

#### (オ) 趣 旨

本展は公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（アイヌ文化財団）との共催事業である。同財団は毎年、アイヌ文化振興のため、北海道内外の博物館・美術館と連携してアイヌ工芸品展を開催しており、本展もその一環で、本年は当館と帯広百年記念館を巡回した。

今回は東北地方での開催となったことから、主に東北地方で収蔵されているアイヌの工芸品や民具を中心に展示することをコンセプトとし、当館に寄託されている渡部つとむコレクションの紹介も行った。また福島県と北海道（蝦夷地）やサハリン（樺太）を結ぶ資料として、会津藩の樺太出兵や同藩による蝦夷地分領支配に関わる資料もあわせて出品し、会津藩とアイヌとの関わりにも注目した。

#### (カ) 展示構成

1. 装う
2. 暮らす
3. 祈る
4. 会津藩と蝦夷地・樺太

#### (キ) 展示資料総数

163点

#### (ク) 主な展示資料

アットウシ（樹皮繊維の衣服）  
テタラペ（イラクサ繊維の衣服）  
チヂリ・カパラミプ・ルウンペ（木綿の衣服）  
蝦夷錦  
ニンカリ・タマサイなど装飾品  
盆や煙草入れ、マキリなど木製品  
鍬形・サパンペ(冠)・イクパスイなど祈りの道具  
会津藩樺太出陣絵巻・蝦夷実景・標津番屋  
屏風など会津藩関係資料

#### (ケ) 関連行事

- ①オープニングセレモニー（カムイノミ）

日時：7月19日(土) 9時40分～10時20分  
 会場：福島県立博物館  
 エントランスホールほか

祭司：野本久栄氏

北海道千歳市在住伝承者：野本敏江氏

②ギャラリートーク

日時：①7月19日(土)  
 10時30分～11時30分  
 ②9月15日(月祝)  
 14時30分～15時30分

会場：福島県立博物館企画展示室

講師：①標津町教育委員会学芸員  
 小野哲也氏ほか

②当館学芸員  
 阿部綾子・内山大介

③実演「アットゥシ織」

日時：7月20日(日)10時00分～15時30分  
 会場：福島県立博物館企画展示室  
 講師：二風谷民芸組合

④体験「アイヌ文様を刺繍しよう！」

日時：7月20日(日)10時～12時、  
 13時30分～15時30分

会場：福島県立博物館実習室

講師：二風谷民芸組合

⑤体験「作って鳴らそう！アイヌの楽器・ムックリ」

日時：8月17日(日)10時30分～12時、  
 13時30分～15時

会場：福島県立博物館実習室

講師：二風谷民芸組合

⑥映像とお話「アイヌとヒグマ」

日時：9月6日(土)13時30分～15時30分  
 会場：福島県立博物館実習室  
 講師：札幌大学特任准教授 田村将人氏、  
 公益財団法人知床財団保護管理研  
 究係主任 葛西真輔氏

(コ) 成果と課題

- アイヌ文化財団との共催形式での開催であり、同財団から適切なアドバイスを受けられたため、アイヌ資料の専門家がない当館でも開催でき、福島県でアイヌ文化に触れる貴重な機会を提供することができた。また資料輸送費など予算的な面でも多くの支援を受けることができたため、開催経費の少ない当館でも大規模な展覧会として開催可能となり、メリットが大きかった。
- 今回はこれまでアイヌ文化財団が開催してきた通常のアイヌ工芸品展とは異なり、会津藩の蝦夷地警備・経営に関わる資料

を出品したことで、北海道と福島県を結ぶ歴史的関係性についても紹介することができ、福島県で開催する意義が深まった。

- 来場者は約4000人であったが、その5%にあたる204人からアンケートの回答を得た。
- アンケートでは約8割の方が企画展を「とても満足」「まあ満足」と回答しており、来場者の満足度は比較的高かったと言える。また料金設定も「適当」「安い」と回答した方が9割にのぼったことから、金銭的にも満足した方が多かった。さらに回答者のうち、当館友の会の会員でない方が94%にのぼること、来館が初めてか2回目である方が45%であること、約3割が県外からの来館者であることを考えると、新たな客層の獲得につながったと考えられる。
- アンケート回答のうち良かった点としては、普段触れる機会の少ないアイヌ文化に触れることができたこと、資料が豊富であったこと、特に衣類の展示が多く説明も簡潔で興味をもつことができたこと、実演や体験が多くあり特に実演でアットゥシ織の織り手と直接話をすることができたこと、アイヌの人々と会津藩との関わりを知ることができたこと、などが挙げられた。今回衣類は衣類用のアクリルケースで展示したため、全体を見ることができたことが高評価につながったようだ。
- 悪かった点としては、説明が不十分であり資料の使用方法が分かりにくかったこと、展示順路が分かりにくかったこと、照明が暗かったこと、アイヌの歴史をもっと掘り下げた説明が必要と感じたこと、などが挙げられた。特に説明が不十分との意見に対しては、展示資料の着用例・使用例などを示す図や写真パネルなどを用いれば改善できた点であり、反省材料の一つである。その他の要望としてはアイヌの工芸品やアイヌ文化を紹介する書籍・DVDの販売を求める声が聞かれ、今後グッズ販売(ミュージアムショップの立ち上げ)を行うことが企画展そのものの検討課題として残った。

平成26年度アイヌ工芸展・夏の企画展

# アイヌの工芸

東北のコレクションを中心に

2014  
7月19日(土)  
9月15日(月・祝)

イベントでも体感!  
**アイヌ文化**

- オープニングセレモニー  
会場：福島県立博物館  
日時：7月19日(土) 9:40～10:20(開)
- キャラクタートーク(1回)  
日時：7月19日(土) 10:30～11:30  
9月15日(月・祝) 14:30～15:30
- 実演「アットゥシ織」  
日時：7月20日(日) 10:00～15:30
- 体験「アイヌ文様を刺繍しよう！」  
日時：7月20日(日) 10:00～12:00(予約のみ) 13:30～15:30
- 体験「作って贈らそう!アイヌの楽器・ムックリ」  
日時：8月17日(日) 10:30～12:00(予約のみ) 13:30～15:00
- 映像とお話「アイヌとヒグマ」  
日時：9月6日(土) 13:30～15:30

福島県立博物館 TEL 0242-28-6000  
FAX 0242-28-5586  
URL: http://www.general.museum.fukushima.jp

「アイヌの工芸」リーフレット



ギャラリートーク



実演「アットゥシ織」



オープニングセレモニー



映像とお話「アイヌとヒグマ」



展示風景

## ウ. 秋の特別展

## 「東日本大震災復興祈念

みちのくの観音さま 人に寄り添うみほとけ」

## (ア) 会 期

平成26年11月1日(土)～12月14日(日)

開館日数38日間

## (イ) 会 場

福島県立博物館企画展示室他

## (ウ) 入館者数

8,143人

## (エ) 担当学芸員

歴史分野：高橋充

民俗分野：内山大介 他

## (オ) 趣 旨

この企画展は、東北歴史博物館との共同企画(巡回展)で、主催は宮城・福島観音プロジェクト実行委員会(福島県立博物館・東北歴史博物館)、NHK福島放送局の共催を得て実施した。

東北各地の観音像、観音に捧げられた奉納品、観音ゆかりの多彩な文化財など約120点を展示した。東北の地に伝えられた貴重な文化財や豊かな精神文化を再発見する場となり、東日本大震災で被災した方々にひと時の安らぎを与え、復興への思いを新たにす機会となることを願って開催した。

なお、特別展および関連事業は、平成26年度文化庁(文化芸術振興補助金)「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の交付をうけて実施した。

## (カ) 展示構成

プロローグ 観音菩薩とは

第1章 観音菩薩のすがた

第1節 金銅仏

第2節 木彫仏

第3節 鏡像と御正躰

第2章 観音菩薩への祈り

第1節 観音信仰の広がり

第2節 みちのくの三十三所巡礼

第3節 講と歌詠み

第4節 生と死をめぐる祈り

エピローグ

## (キ) 展示資料総数

約120点

## (ク) おもな展示資料

○木造菩薩(観音菩薩)坐像

天台寺(岩手県二戸市)

○木造十一面観音菩薩立像

小沼神社(秋田県大仙市)

○木造十一面観音菩薩立像

泉龍寺(福島県南相馬市)

○木造聖観音菩薩立像

常春寺(宮城県石巻市)

○銅造聖観音菩薩立像

聖福寺(青森県おいらせ町)

○銅造如意輪観音菩薩坐像

金峯神社(山形県鶴岡市)

○銅造十一面観音菩薩坐像

都々古別神社(福島県棚倉町)

○銅造聖観音菩薩坐像御正躰

若松寺(山形県天童市)

○紙本墨書法用寺縁起絵巻

会津若松市立会津図書館

(福島県会津若松市)

○観音礼拝図絵馬 常隆寺(福島県棚倉町)

○庄内三十三所巡礼図絵馬

荒沢寺正善院(山形県鶴岡市)

○傘福 龍沢寺(山形県酒田市)

## (ケ) 関連行事

①関連講座「観音さまのふるさと」

日時・講師

11月8日(土)13:30～14:30

「会津の観音講と安産祈願」

当館学芸員 内山大介

11月11日(火)13:30～14:30

「東日本大震災と観音さま」

当館学芸員 高橋充

11月22日(土)13:30～14:30

「酒田の傘福・会津のカサボコ」

当館学芸員 内山大介

12月11日(木)13:30～14:30

「東北各地の観音札所めぐり」

当館学芸員 高橋充

会場：講堂

②展示解説会

講師：当館学芸員

11月1日は東北歴史博物館学芸員

日時：11月1日(土)

11月23日(日祝)

12月14日(日)

各回とも13:30～14:30

会場：企画展示室

③連携事業1

会津美里町教育委員会歴史講座

「観音信仰と会津美里町」(第3回)

講師：当館学芸員 高橋充

日時：11月6日(木)10:00～12:00

会場：講堂

④連携事業2

東北地方民俗学会合同研究会・日本民俗

学会談話会シンポジウム『「めぐり」と民俗信仰』

日時：12月6日(土)13:00~16:30

会場：講堂

### (コ) 学校連携事業

#### 「宮城・福島観音プロジェクト」

特別展の開催に合わせて、県内の複数の学校と連携しながら、児童・生徒を対象に「観音さまを学ぶ」ための事業を展開した。連携して事業を進めていただいた学校は下記の通り。

- 郡山市立湖南小中学校
- 湯川村立笈川小学校
- 湯川村立勝常小学校
- 福島県立船引高等学校（田村市）

それぞれの学校の教育方針に合わせ、また児童・生徒の発達段階も考慮しながら、基本的には以下のような内容で実施した。

- ①観音や仏教・寺院に関連する内容の学芸員の出前授業
- ②身近な地域の観音像をまつる寺院や観音堂の現地見学
- ③特別展「みちのくの観音さま」の展示見学会と学習成果の発表

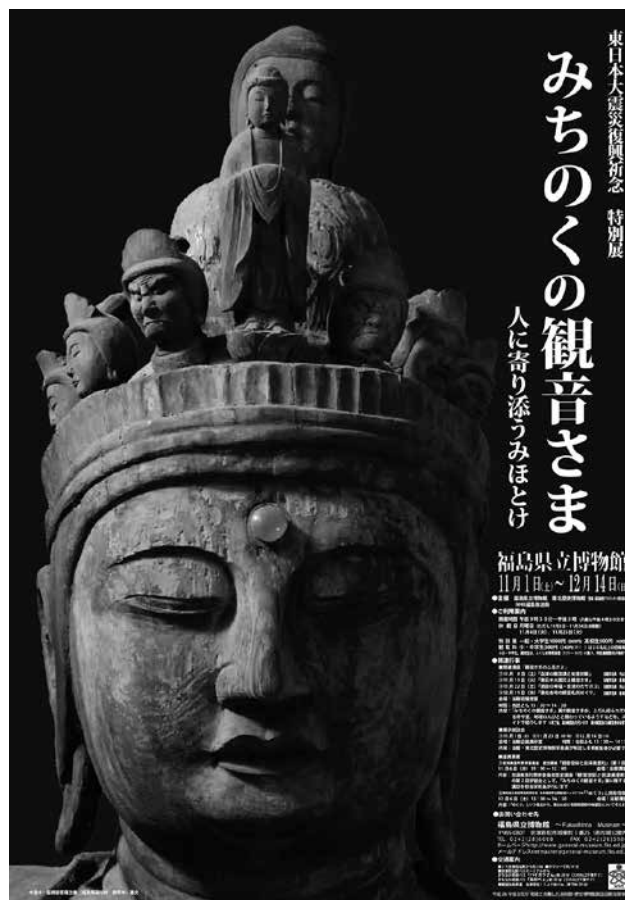
また博物館特派員事業として身近な観音について情報などを募集したところ、福島県立福島明成高等学校（福島市）の郷土史部が、以前に近隣の寺院の調査と成果発表を行っていた。これらの学校での活動内容（写真パネル）と児童・生徒が制作した成果品などを、平成27年2月14日(土)~3月3日(火)エントランスホールで掲示した。

### (サ) 成果と課題

東北各地の観音像が集められ、一度に観覧できる機会となったことが来館者の好評価となった。四方から見られるようにした仏像の展示手法も好評であった。また仏像ばかりでなく、観音に対する信仰を示す絵馬やさまざまな奉納品を展示し、巡礼や観音講を対象に盛り込んだことが、展示内容の幅を広げ、東北の観音信仰の奥深さに迫るものとなった。

来館者アンケートでは、図録がなかったことに対する不満が多く、その他に音声ガイドや高齢者割引などを要望する声もあった。また展示室内の騒音など、静かに観覧できないことへの不満の声もあった。大規模な展覧会は、大幅に外部助成金に頼らなければ実施できない状況の中では、どうしても実現できることには制約が多くなる。

その中で、今回のように他館との協力を試みたり、館内部でもできる限りの工夫を重ねることによって、少しでもよい展示を目指してゆくことが求められている。



「みちのくの観音さま」福島会場ポスター



開会式（小学生の学習成果中間発表）





展示解説会①



展示解説会②



展示風景



学校連携事業（勝常寺の現地見学学習）

### (3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会であるが、今年度は、磐越西線全通100年を記念して、企画展示室の一角にある収蔵資料展示室を使用して開催した。ただし企画展のように特別の料金はとらず常設展料金で観覧できるようにした。特に予算化して準備した展示会ではなかった。

#### (1) 「磐越西線100年のあゆみ」

##### (ア) 会 期

平成26年 5月27日(火)～7月6日(日)

##### (イ) 会 場

福島県立博物館企画展示室収蔵資料展示室

##### (ウ) 入館者数

10,016人（会期中の常設展入館者数）

##### (エ) 担当学芸員

歴史分野：佐藤洋一・田中伸一

##### (オ) 趣 旨

会津地方が戊辰戦争の荒廃から脱却し、経済復興するためには、物資の大量輸送が可能な鉄道が必要だった。しかし、この鉄道が敷設されるまでには、紆余曲折があった。明治20年代に鉄道敷設運動が開始され、大正3年（1914）に郡山～新津間の全線が開通するまで、先人たちの並々ならぬ労苦があった。

この特集展では、あまり知られていない岩越鉄道株式会社という私鉄の時代から国有化による国鉄時代、さらに国鉄解体によるJR東日本へという変遷をゆかりの資料を交えながら紹介し、各時代を概観した。

##### (カ) 主な展示資料

- ①岩越鉄道の時代（1906年まで）
- ②国鉄の時代（戦前）（1945年まで）
- ③国鉄の時代（戦後）（1987年まで）
- ④JRの時代

の4つに時代区分し、各時代に関わる古写真や印刷物、鉄道で使用された道具、SLや電車の写真等を展示した。

##### (キ) 関連事業

Nゲージ運転会（会期中、毎週、土曜日と日曜日に実施した。）

5月31日(土)、6月1日(日)、6月7日(土)

6月8日(日)、6月14日(土)、6月15日(日)

6月21日(土)、6月22日(日)、6月28日(土)

6月29日(日)、7月5日(土)、7月6日(日)

各実施日の運転時間

午前の部：午前10時～午前11時

午後の部：午前 2時～午後 3時

## (ク) 資料提供者・協力者

会津若松市教育委員会、会津若松市立会津図書館、一般財団法人猪苗代町振興公社、喜多方市教育委員会、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、個人



「磐越西線100年のあゆみ」リーフレット



展示室風景



Nゲージ運転会

(2) 「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部  
笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡―」

(ア) 会 期

平成27年2月7日(土)～3月22日(日)

(イ) 会 場

福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数

3,157人(会期中の常設展入館者数)

(エ) 担当学芸員

考古分野：荒木 隆

(オ) 趣 旨

郡山女子大学短期大学部文化学科では、福島県立博物館の表面調査によって発見された笹山原No.16遺跡(会津若松市)の発掘調査を2001年以来、考古学実習として継続して行ってきた。

笹山原No.16遺跡の調査では、当初の目的としていた後期旧石器時代前半期をはじめとして、その後の縄文時代や平安時代の遺構や遺物が広範囲にわたって発見された。調査結果の詳細な検討から、縄文時代前期や平安時代の会津地方における土器作りのようすが具体的に浮かび上がってきたり、縄文時代前期のムラのような様子が見えてきたりしている。

今回の展示では、これらの調査成果について、調査に実際に携わった大学生も交えて展示や解説を行った。

(カ) 主な展示資料

後期旧石器時代前半期の石器集中地点から出土したナイフ形石器、局部磨製石斧、石器の素材だった石刃、石器の素材を作るための剥片、石核などを集中地点ごとに展示した。

縄文時代前期(今から約6,000年前)の竪穴建物、土坑、集石墓などから出土した石鏃・石槍・石鏃・搔器・磨製石斧・石皿・

磨石・石錘などの石器や縄文土器、縄文土器の中には焼成中に破損したと思われる土器片も含まれており、このムラの中で縄文土器が製作されていたことも紹介した。

平安時代には土師器生産を担った集落が発見されており、材料の粘土をはじめ、粘土採掘穴、ロクロを用いた土師器製作工房として使われた竪穴建物、土師器の焼成遺構などが確認されている。それらの遺構から出土した粘土、製作途中の土師器、焼成に失敗して破損した土師器など、土師器の製作工程がわかる資料を工程ごとに展示した。

(キ) 関連事業

○記念講演会

演題：「発掘ガールに囲まれて  
—私の考古学—」

講演者：郡山女子大学短期大学部  
准教授 會田容弘氏

日時：平成27年3月8日(日)13：30～

場所：当館講堂

○学生による展示解説会

日時 ①平成27年2月7日(土)13：30～

②平成27年3月8日(日)

記念講演会終了後

場所 当館企画展示室

講師 郡山女子大学短期大学部文化学科  
・専攻科文化化学専攻 学生有志

(ク) 資料提供者・協力者

郡山女子大学短期大学部



「発掘ガール」リーフレット



展示解説会



展示作業終了記念撮影

## (4) 移動展

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いために移動展を実施してきた。

利用を促進するために移動展のパッケージプラン（別表）を用意し、その中から選んでいただくということも試みてきたが、今年度の実施はなかった。

## 移動展パッケージプラン一覧

No	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
1	考古	A	福島県立博物館所蔵 県指定考古資料展	1～2ヶ月	30～40点	県指定品である優品の紹介
2	考古	B	三貫地貝塚展	1～6ヶ月	約40点	新地町にある 縄文時代貝塚の特集
3	考古	B～C	さわってみよう、縄文人・古代人の どうぐ・うつわ・かざり	1～6ヶ月	約41点	ハンズオン＋実物資料 原始・古代を実感
4	自然	A	謎の海獣 パレオパラドキシア	協議	約60点	梁川町発掘の1600万年前の化石
5	自然	B～C	見る・さわる 世界の化石	協議	約670点から選択	ハンズオン 生物の歴史と化石 の楽しさを提供
6	美術	A	けんぱくの宝	協議	約15点	一級の美術工芸品
7	美術	B	近くで見よう ハンズオン対応資料展	協議	約20点	ハンズオン ふれて学ぶ美術品
8	民俗	B～C	東北の仕事着	1～2ヶ月	約1200点から選択	コレクション資料 体験講座も可
9	民俗	A～B	郷土玩具	1～2ヶ月	約1900点から選択	コレクション資料 県内各地の郷土玩具
10	民俗	B～C	ふくしまの火伏せ	1～2ヶ月	3セット	安達(中)・三島(会)・鹿島(浜) の火伏とは
11	民俗	B～C	東日本のわら人形	1～2ヶ月	約20点	関東以北、村を守る想いとほ
12	歴史	B	お金の歴史	2ヶ月程度	約250点	お金の歴史をわかりやすく
13	分野横断	A	県立博物館移動展 はま・なか・あいづの名品	1～2ヶ月	約280点	けんぱくの所蔵する各地の名品 が大集合
14	分野横断	A	博物館がやってきた！！ ー県立 博物館収蔵庫のヒ・ミ・ツー	1～2ヶ月	約280点	普段は入れないけんぱく収蔵庫 のヒミツとは
15	分野横断	A	未来へ伝える 県立博物館の宝展	1～2ヶ月	約50点	考古・美術の一級資料をご紹介します
16	分野横断	A	さわって感じる 化石・古代・美しさ展	1～2ヶ月	約730点から選択	大ハンズオン展、ふれて感じる 展覧会です

※規模欄の記号は以下を表します。なお、この表示はおおよその目安であり、出品資料の詳細は担当学芸員と相談のうえ決定します。

A：広いフロア・多くの展示設備を必要とし、美専車で輸送が必要な大規模プラン。展示室内か入口に監視員要

B：美専車不要の資料、未指定品で構成する中規模プラン。一定のフロア、展示設備が要。展示室内か入口に監視員要

C：美専車不要の資料、未指定品で構成する小規模プラン。展示室入口に監視員か資料保全の図れる展示ケース等が必要

## 移動展 出品可能個別資料一覧

No	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
1	民俗	渡部つとむコレクション	約1200点	無	不要	相談	寄託資料：仕事着・子供祝着など 寄託資料
2	民俗	大竹コレクション	約1500点	無	不要	相談	こけし、郷土玩具など
3	民俗	東日本のわら人形	約20体	無	※要	可	企画展「境の神・風の神」で製作したもの。美専ではなくとも業者による輸送が必要
4	民俗	会津の雪の装い	約10点	無	不要	可	ハンズオン：カンジキ各種、菅笠、 ゲンベエ、雪踏み俵、蓑など
5	民俗	オカマサマ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。旧安達町：屋根裏に下げていたセット。男性、女性、牛蒡、鯉節、干し柿、鶴、亀など

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
6	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。三島町名入地区：男性、女性製作時の写真
7	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	南相馬市鹿島区：蛇、牛蒡、魚
8	民俗	皮箕	2	無	不要	可	サワグルミ製 三島町他
9	民俗	オリッカ	3	無	不要	可	サワグルミ制 会津美里町
10	民俗	苧引き鉄	3	無	不要	可	
11	民俗	苧引き用舟	3	無	不要	可	くり抜き
12	民俗	麻糸	1袋	無	不要	可	
13	民俗	糸車	2	無	不要	可	麻糸よりかけ用
14	民俗	地機	1	無	不要	可	糸がかけてある
15	民俗	鯨鉢	3	無	不要	可	本郷焼
16	民俗	切立	3	無	不要	相談	本郷焼 一部寄託資料も
17	考古	三貫地貝塚出土縄文土器（複製）	10	無	不要	可	ハンズオン
18	考古	平安時代土器（複製）	10	無	不要	可	ハンズオン
19	考古	首飾り（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
20	考古	古墳時代鏡（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
21	考古	大窪横穴須恵器類	10	無	不要	可	
22	考古	勿来金冠塚古墳出土冑	1式	無	不要	不可	
23	考古	勿来金冠塚古墳冑（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
24	歴史	いわき地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
25	歴史	相双地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
26	歴史	県南地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
27	歴史	県中地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
28	歴史	県北地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
29	歴史	南会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度
30	歴史	北会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度

## （5）指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

### ア. 国指定

〈国宝〉「一字蓮台法華経開結共」九巻のうち一巻（巻第八）龍興寺（福島県）

〈重文〉「木造十一面観音立像（観音堂安置）」一軀 勝常寺（福島県）

〈重文〉「熊野那智神社御正躰」三十七面のうち五面 高館熊野那智神社（宮城県）

〈重文〉「木造十一面観音像懸仏」一面 昌林寺（山形県）

〈重文〉「金銅聖観音像懸仏」一面 若松寺（山形県）

〈重文〉「天台寺本堂 棟札」一枚 天台寺（岩手県）

〈重有民〉「円覚寺奉納海上信仰資料」円覚寺（青森県）（以上7件は特別展「みちのくの観音さま」）

〈重文〉「磐城檜葉天神原遺跡出土品」檜葉町

（福島県）（総合：原始展示室）

### イ. 県指定（福島県指定）

〈県指定〉「木造十一面観音立像」一軀 泉龍寺（福島県南相馬市）

〈県指定〉「八槻都々古別神社御正体」三面 八槻都々古別神社（福島県棚倉町）

〈県指定〉「木製旧堂山寺観音堂順礼納札」一枚 堂山王子神社（福島県田村市）

（以上3件は特別展「みちのくの観音さま」）

〈県指定〉「梁川城跡出土品」伊達市教育委員会（総合：中世展示室）

## （6）展示解説

### ア. 展示解説員

平成26年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算がついていた。春の企画展では、展示予算の中で監視員を予算化することができず、

夏と秋の企画展では、辛うじてそれぞれの展示予算内で監視員を1名委託することができた。

ただ、企画展開催時には企画展示室の入口のもぎりに人数を割かれるなどするため、常設展示室内の監視員として実質1名の減となっている。そのため、学芸員による監視・解説活動を増やし、定数減の状況乗り越えしかなかった。

このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が多く、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。

しかし、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応などは、展示や館内の業務をよく知っている解説員でなければ担当できない業務である。現在は、減員の中でもどうにか対応している状況であるが、現在の定員が通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来すおそれも出てくる。

#### (ア) やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催することになっている。1回の所要時間は約30分。今年度のやさしい展示解説は5月10日から始めた。

実施状況

開催日数：75日 実施日数：54日

開催回数：146回 実施回数：63回

総参加人数：153人

#### (イ) 通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：16回

#### (ウ) 部屋送り解説

非定期的常設展・企画展の解説。主とし

て来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：47回

#### (エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成26年度も実施されなかった。ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

#### イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。26年度は年間で411回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった春の企画展では解説員の人員配置を工夫したが、前年度以上に学芸員が展示室に立つ回数も増加した。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものがあったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

#### ウ. 展示解説のための印刷物

##### ① 福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。  
106 p.

##### ② 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

##### ③ Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

#### (7) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは

衣服の上からだがかかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。



体験学習室

## ア. 衣装

### (ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われる、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

①衣装着付け件数 563件

②着付けた衣装

春：打掛・番具足

夏：水干・直垂

秋：壺装束・武士旅姿

冬：半袴・白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くなるし、多人数の要望には一度に心え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

### (イ) 衣装展示

春：大鎧・稚児鎧

夏：大工・小袖

秋：町人旅姿・編綴

冬：推古朝朝服・天武朝女官朝服

## イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り

12月：クリスマスツリー

1月：団子さし

3月：手作り雛人形

## ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：131件

## エ. ハンズオンコーナー

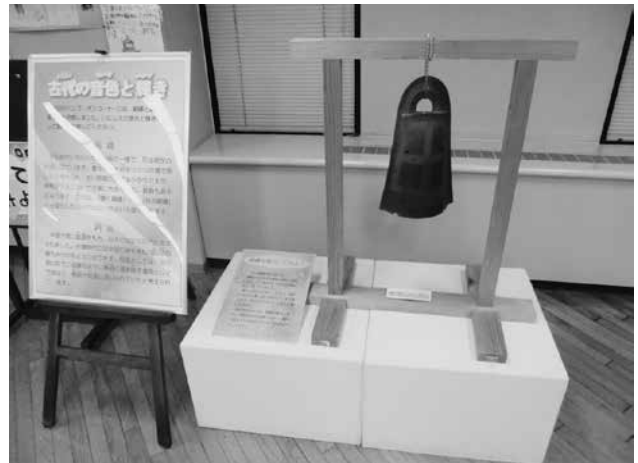
来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成26年4月～平成26年10月

「化石にふれてみよう」（自然分野）

平成26年10月～平成27年3月

「古代の音色と輝き」（考古分野）



ハンズオンコーナー「古代の音色と輝き」

## (8) 博物館新情報収集・展示室 改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルを実施した博物館の視察や新しい展示手法に関する情報収集を目的に活動している。今年度は、リニューアルに向けてのロードマップ案の作成と検討を実施した。その中で次年度以降の取り組みの検討を行い、先進地視察・研修・博物館へのデジタル技術の応用の検討などを計画した。

これに関連して他県所在博物館のリニューアルについての動向を理解するために、アンケート調査等によるデータ収集とリニューアルに向けての当館の現状把握と課題抽出を年度内に実施する計画を立てた。しかしアンケート調査は設問の作成すらできないまま作業が中断しその後の進展がなく年度を終えた。また当館の課題抽出については作業方法の検討も行えなかった。

## 4. 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。平成26年度は、以下の4テーマで調査研究を進めることとした。

#### ア. 新生代植物化石の再評価

##### (ア) 趣旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクションは(故)鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。すでにこれらの標本の10,000点以上が鑑定、整理されてきたが、最近、産地・地質時代にまとまりのある標本に関して、ボランティアの力を借りながら、新たに1,000点以上の整理を進めることができた。そこで、これらについて鑑定内容を確認した上で成果を論文として公表し、コレクション整理の成果をさらに充実させたい。

##### (イ) 概要

研究の内容として、郡山市熱海町地域における片平層、および金山町猿倉沢地域における上井草層の化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。

平成26年度は、金山町における地質調査を2回、これに関連する只見町野々沢における植物化石産地の地質調査を1回行った。また、国立科学博物館研究主幹の矢部 淳氏を招き、片平層産植物化石の同定内容について確認と修正を依頼した。

#### イ. 会津藩社倉制の研究

##### (ア) 趣旨

江戸時代には備荒貯蓄や米価調整のため、各藩や代官所においてさまざまなシステムの構築が試みられた。その備荒貯蓄政策の代表的なものは会津藩の例で、保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度である。この制度は藩政時代から全国的にも注目された

が、その詳細について、系統的な研究はあまり行われていない。よって各種文献の調査等を行い、制度の具体的なシステムについて明らかにすることを目指す。

##### (イ) 概要

社倉の運用方法などを示す具体的な基礎資料を調べる中で、「社倉方一式」という資料の存在が判明した。この資料が会津藩の社倉米の制度やその配分を具体的に知ることの出来る貴重なものであったため、平成26年度は調査内容を紀要で公表した。平成27年度も関連資料の調査を継続し、展示等で公開する予定である。

#### ウ. 山口弥一郎調査資料の研究

##### (ア) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

##### (イ) 調査概要

平成26年度は、本研究を進めるにあたっての調査資料の管理や整理等について、磐梯町との協議を進めた。その結果、平成27年3月31日付で「『山口弥一郎旧蔵資料の整理と活用に向けた調査研究』のための協約書」を磐梯町長と当館館長の間で取り交わし、相互に協力して研究を進めることになった。実際には27年度から資料の借用と整理を進めていくことになる。

#### エ. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

##### (ア) 趣旨

平成26年度から新たにテーマを設定して研究を開始した。Ⅰ縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館で収蔵している当該期の考古資料を中心に、資料の有する社会的背景を



考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。Ⅰでは①縄文時代中期末の「複式炉文化」の検討、②縄文後晩期の土器製塩、③縄文時代末から弥生時代における栽培植物痕跡の調査を検討事項として設定している。またⅡでは④象嵌資料の研究および⑤終末期古墳に関連する研究を個別研究テーマとしている。

## (イ) 調査概要

②について大熊町落合B遺跡出土製塩土器および相馬市成田藤堂塚遺跡出土製塩土器の型式学的な検討を行った。落合B遺跡出土品は文化財レスキュー資料として当館で保管し以後大熊町から寄託を受けている資料である。整理登録作業の中で資料の中に製塩土器が含まれていることを確認したもので、双葉郡内における縄文時代製塩土器の初確認事例である。

製塩土器は無文の土器であるため、従来の写真や実測図および拓本では細部の情報が示しにくいため、今回は三次元レーザー計測による実測手法を試みている。成果について今年度の紀要で公表している。

④では、福島市梅本古墳出土刀装具と同文様を有する山梨県古柳塚古墳と石川県須曾蝦夷穴古墳出土品の調査を行った。エックス線透過写真や実資料の観察の結果、梅本古墳と同様の技術で製作されていることが示唆された。当時の装飾付大刀の生産と流通(配布)を検討する上で貴重な資料である。

## (2) その他の調査研究事業

### ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成26年度は、前年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料の整理作業を継続して実施したほか、近年受け入れた小口の資料整理作業を行った。また整理済の未登録資料(築田家追加

寄託資料他)をI.B.M(更新された資料管理システム)に登録するため、入力作業を行った。マイクロ撮影は、「特定医療法人明智会寄託資料」を継続して行ったほか(今年度で撮影終了)、新たに築田家追加寄託資料の撮影を行った。

## (3) 職員の研究活動

### ア. 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

#### (ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

阿部綾子 2014.7「会津藩とアイヌ—文化5年の接点を基軸として—」『アイヌの工芸—東北のコレクションを中心に—』pp.118-123 福島県立博物館企画展図録 福島県立博物館

阿部綾子 2015.3「社倉方一式」『福島県立博物館紀要』第29号 pp.143-152 福島県立博物館

阿部綾子・高橋 充 2015.3「寛永二年醍醐寺僧侶の東国下向記(2)」『福島県立博物館紀要』第29号pp.131-142 福島県立博物館

阿部綾子 2015.3「第三章第二節1 会津藩の転封と斗南藩の成立」『青森県史 資料編 近世6 幕末・維新期の北奥』pp.553-585 青森県

阿部綾子 2015.3「福島県の歴史シリーズ第7回 福島県の人物(2) 戊辰戦争後の松平容保—御小姓が記録した後半生—」『福島県の進路』No.392 pp.45-48 一般財団法人とうほう地域総合研究所

内山大介 2014.8「石井正己著『遠野の民話と語り部』(書評)石井正己編『国際化時代と「遠野物語」』三弥井書店

内山大介 2015.1「会津の初市～雪国の新春の風物詩～(祭り歳時記004)」『文化庁広報誌ぶんかる』(文化庁WEB広報誌)  
[http://prmagazine.bunka.go.jp/rensai/matsuri/matsuri\\_004.html](http://prmagazine.bunka.go.jp/rensai/matsuri/matsuri_004.html)

内山大介 2015.3「なぜ『ウチの会社では』というのか?—ウチの意識・ソトの意識—」『知って役立つ民俗学 現代社会への40の扉』福田アジオ責任編集(共著)ミネルヴァ書房

内山大介 2015.3「東北の観音霊場と民俗信仰(特集 東北の観音信仰)」『福島県立博物館紀要』第29号 pp.67-79 福島県立博物館

大里正樹 2015.3「第三章 衣食住 二 食生活」『野田市民俗調査報告書9 木間ヶ

- 瀬の民俗』pp.43-61 野田市  
 大里正樹 2015.3「第四章 人生儀礼 三葬送」『野田市民俗調査報告書9 木間ヶ瀬の民俗』pp.72-89 野田市  
 高橋 充 2014.4「長床に関する文献について」会津喜多方新宮熊野神社長床の建築年代研究—Ⅱ—出土遺物・文字資料・C14年代調査による『長岡造形大学研究紀要』11pp.76-77 長岡造形大学  
 高橋充・阿部綾子 2015.3「寛永二年醍醐寺僧侶の東国下向記(2)」『福島県立博物館紀要』第29号pp.131-142福島県立博物館  
 高橋 充 2015.3「特別展『みちのくの観音さま』の概要」特集東北の観音信仰1『福島県立博物館紀要』第29号 pp.47-53 福島県立博物館  
 高橋 満 2014.9「福島県の歴史シリーズ第4回福島県の遺跡(4) 中島村四穂田古墳の発見—東北地方最古のよろい—」『福島の進路No.386』一般財団法人とうほう地域総合研究所  
 高橋 満 2014.11「製塩活動の展開と技術」『季刊考古学・別冊21 縄文の資源利用と社会』株式会社雄山閣  
 高橋 満 2015.3「落合B遺跡出土の製塩土器類」『福島県立博物館紀要第29号』福島県立博物館  
 田中敏 2014.10「会津盆地における弥生時代墓制研究の動向—会津美里町油田遺跡をめぐって—」『第22回企画展 弥生時代の山形』pp.144-149山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館  
 中村五郎・田中敏「永山巨追悼論文 いわき市須賀蛭遺跡の弥生土器と東日本の天王山式から布留式までの間の変動(1)」『福島県立博物館紀要』第29号pp.11-28福島県立博物館  
 佐野千絵・北野信彦・早川典子・杉崎佐保恵・松田隆嗣・伊藤匡・桧垣正吾・久保謙哉・石崎武志 2015.3「福島第一原子力発電所事故に伴い環境中に放出された放射性物質への対応—文化財の放射線対策と除染の考え方—」『文化財保存修復学会誌(古文化財之科学)』第58号 pp.17-37
- (イ) 学会発表  
 石崎武志・佐野千絵・松本透・丹野隆明・伊藤匡・杉崎佐保恵・松田隆嗣 2014.6「文化財の放射線対策に関する調査研究—体制づくりと日本の文化施設のバックグラウンド研究—」文化財保存修復学会第36回大会  
 於東京  
 佐野千絵・北野信彦・石崎武志・松本透・丹野隆明・伊藤匡・杉崎佐保恵・松田隆嗣 2014.6「文化財の放射線対策に関する調査研究—職員行動マニュアルと文化財除染の考え方試案—」文化財保存修復学会第36回大会於東京  
 山崎正彦・松田隆嗣・杉崎佐保恵 2014.6「展示ケース内で発生する有害ガスの濃度測定における問題点について(2)—平視型展示ケースの測定時における問題点—」文化財保存修復学会第36回大会於東京  
 佐野千絵・石崎武志・今津節生・桧垣正吾・久保謙哉・葉袋佳孝・松本透・伊藤匡・杉崎佐保恵・丹野隆明 2014.7「文化財の放射線対策に関する調査研究—職員行動マニュアルと文化財除染の考え方—」第51回アイソトープ・放射線研究発表会  
 高橋 充 2014.7「信夫山と羽黒・観音信仰」福島県史学会 於福島市  
 高橋 満 2014.10「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動」平成26年度日本博物館協会東北支部・東北地区博物館合同研修会
- イ. 他団体による委嘱等  
 阿部綾子：青森県史編さん調査研究員 青森県  
 阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会  
 阿部綾子：アイヌ工芸品展企画委員 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
 荒木 隆：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会  
 内山大介：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館)連携研究「大規模災害と広域博物館連携に関する総合的研究」連携研究員  
 内山大介：国立歴史民俗博物館 共同研究「東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合」共同研究員  
 内山大介：アイヌ工芸品展企画委員 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
 内山大介：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会  
 大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会  
 大里正樹：野田市史編さん調査研究員 野田市  
 川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員

喜多方市教育委員会  
 川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館  
 川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会  
 川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員 須賀川市教育委員会  
 川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会  
 川延安直：文化芸術による復興推進コンソーシアム推進委員 文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員会  
 川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学  
 川延安直：会津若松市手づくり舞台制作委員会委員 会津若松文化振興財団  
 川延安直：文化のまちづくり事業委員会委員 会津若松文化振興財団  
 小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合  
 小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学  
 小林めぐみ：森のはこ舟アートプロジェクトコーディネーター 森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会／福島県  
 小林めぐみ：喜多方・夢・アートプロジェクト実行委員会委員 喜多方・夢・アートプロジェクト運営委員会／喜多方市  
 小林めぐみ：あいづまちなかアートプロジェクト部会員 あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会／会津若松市  
 小林めぐみ：会津塗マリアージュ事業 会津塗アート手塩皿漆絵原画デザインコンテスト審査員 会津漆器協同組合  
 佐々木長生：相馬市史編さん調査執筆委員 相馬市教育委員会  
 佐々木長生：小高町史編纂委員 南相馬市教育委員会  
 佐治 靖：平安座の民俗と歴史研究 うるま市平安座自治会  
 佐治 靖：郡山市文化財保護審議委員会委員 郡山市教育委員会  
 佐治 靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜枝岐村教育委員会  
 佐治 靖：大規模複合災害における自治体・コミュニティの減災機能に関する社会学的研究 日本学術振興会  
 佐治 靖：災害復興における在来知—無形文化財の再生と記憶の継承 国立民族学博物館

佐治 靖：課題研究懇話会「災害人類学」日本文化人類学会  
 佐藤洋一：福島県文学賞審査委員会委員 福島県文化スポーツ局  
 佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員  
 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会  
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会  
 高橋 充：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教育委員会  
 高橋 充：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会  
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会  
 高橋 充：会津藩主松平家墓所保存整備委員会委員 猪苗代町教育委員会  
 高橋 充：阿津賀志山防塁発掘調査指導及び整備計画策定委員会委員 国見町教育委員会  
 高橋 充：宮脇遺跡調査指導委員会委員 伊達市教育委員会  
 高橋 充：棚倉城跡調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会  
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町  
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会  
 高橋 充：福島県における歴史資料の保全と地域総合学構築に関する研究 日本学術振興会  
 高橋 充：サポートセンター員 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター  
 高橋 満：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会  
 高橋 満：学術振興会「阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向」研究協力者 福島大学  
 高橋 満：日本先史文化の多視点研究研究推進員 明治大学日本先史文化研究所  
 高橋 満：縄文期製塩土器における型式分類と資料化の標準に関する研究 明治大学  
 竹谷陽二郎：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会  
 竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員 南相馬市博物館  
 竹谷陽二郎：磐梯山ジオパーク協議会運営委員長 磐梯山ジオパーク協議会

竹谷陽二郎：ジオパーク支援委員 日本地質学会  
 竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぶらっとフォーラム連携コーディネーター  
 竹谷陽二郎：サポートセンター員 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター  
 田中 敏 会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会  
 田中 敏：福島県考古学会理事 福島県考古学会  
 藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員会 会津若松市教育委員会  
 藤原妃敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若松市教育委員会  
 藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教育委員会  
 藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育委員会  
 藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委員 喜多方市教育委員会  
 藤原妃敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会  
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学  
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会  
 藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員 南相馬市博物館

藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会  
 藤原妃敏：サポートセンター員 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター  
 藤原妃敏：森林に係わる調査検討委員会委員 福島県森林文化課  
 藤原妃敏：只見町ブナセンター運営委員会委員 只見町ブナセンター  
 森 幸彦：鹿島町史編さん委員 南相馬市教育委員会  
 森 幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員会文化財調査部会委員 三島町  
 森 幸彦：福島県の森林文化に係わる調査検討委員会委員 福島県森林文化課

#### ウ. 研究助成金等

杉崎佐保恵：独立行政法人日本学術振興会平成26年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）  
 研究テーマ「ソジウムセスキカーボネート法による出土鉄製品の脱塩処理過程における変色の研究」  
 高橋満：「縄文期晩期製塩土器における型式分類と資料化の標準に関する研究」明治大学  
 大久保忠和考古学振興基金奨励研究（2013-2014年度）

## 5. 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成26年度の各講座開催数と参加者数を下記に

記した。

前年度（平成25年度）の開催回数は86回で今年度は10回多かった。総参加者数は前年度7,220人で、1,134人の減少、前年比84%であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

### 平成26年度講座・講演会等行事一覧

#### (1) 木曜の広場

テ	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
「はじまりの東北学」	1	赤坂憲雄		館長	4月17日	(木)	95
「はじまりの東北学」	2	赤坂憲雄		館長	5月15日	(木)	125
「はじまりの東北学」	3	赤坂憲雄		館長	6月19日	(木)	112
「はじまりの東北学」	4	赤坂憲雄		館長	7月17日	(木)	110
「はじまりの東北学」	5	赤坂憲雄		館長	8月22日	(木)	121
「はじまりの東北学」	6	赤坂憲雄		館長	9月18日	(木)	104
「はじまりの東北学」	7	赤坂憲雄		館長	10月16日	(木)	95
「はじまりの東北学」	8	赤坂憲雄		館長	11月20日	(木)	98
「はじまりの東北学」	9	赤坂憲雄		館長	12月18日	(木)	70
「はじまりの東北学」	10	赤坂憲雄		館長	1月15日	(木)	88
「はじまりの東北学」	11	赤坂憲雄		館長	2月26日	(木)	110
「はじまりの東北学」	12	赤坂憲雄		館長	3月26日	(木)	121

#### (2) 考古学講座

テ	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
実技講座「土器作り1」		森 幸彦		学芸員	8月 2日	(土)	20
実技講座「土器作り2」		森 幸彦		学芸員	8月 3日	(日)	20
実技講座「土器の野焼き」		森 幸彦		学芸員	9月28日	(日)	20
考古学最前線「みちのくの弥生水田」		田中 敏		学芸員	7月12日	(土)	16
考古学最前線「新発見！最北の短甲～中島村四穂田古墳」		高橋 満		学芸員	9月14日	(土)	75
考古学最前線「ふくしまの古代交通路」		荒木 隆		学芸員	10月11日	(土)	60
実技講座「古墳の壁画を描いてみよう」		荒木 隆		学芸員	10月25日	(土)	6
考古学最前線「Salon de Jomon」		森 幸彦		学芸員	1月10日	(土)	20
実技講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」		高橋 満		学芸員	3月29日	(土)	20
考古学最前線「Salon de Archaeology」		藤原妃敏		学芸課長	3月22日	(日)	25

#### (3) 民俗学講座

テ	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
「ふくしまの農の神さま」		佐々木長生		専門員	12月13日	(土)	32
「サイノカミ～会津の小正月行事～」		二瓶浩伸		学芸員	1月24日	(土)	32
「わら人形の信仰と行事」		大里正樹		学芸員	2月14日	(土)	35
最終講演会「佐々木長生学芸員半生（反省!?) を語る」		佐々木長生		専門員	3月 1日	(日)	207
「ひな行事～流し雛と吊るし雛～」		内山大介		学芸員	3月14日	(土)	33

## (4) 歴史講座

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
歴史講座	「歴史の中の遊び1	あそびと馬」	田中伸一	学芸員	2月 7日(土)	30
歴史講座	「歴史の中の遊び2	会津の板かるた」	阿部綾子	学芸員	2月21日(土)	65
歴史講座	「歴史の中の遊び3	戦国武将の嗜み」	高橋 充	学芸員	2月28日(土)	58

## (5) 自然史講座

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
野外講座	「化石をさがそう」		竹谷陽二郎	学芸員	9月 6日(土)	35
実技講座	「化石標本をつくろう」		相田 優	学芸員	9月 7日(日)	35
鶴ヶ城の野鳥			古川裕司	野鳥研究家	11月16日(日)	8

## (6) 保存科学講座

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
博物館の裏側～保存科学の仕事をのぞこう～			杉崎佐保恵	学芸員	4月26日(土)	14

## (7) ギャラリートーク

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
解説会	「展示資料からみる古代のふくしま」	①	荒木 隆	学芸員	5月 6日(火)	19
解説会	「展示資料からみる古代のふくしま」	②	荒木 隆	学芸員	8月16日(土)	9
解説会	「展示資料からみる古代のふくしま」	③	荒木 隆	学芸員	9月15日 (月・祝)	11
解説会	「展示資料からみる古代のふくしま」	④	荒木 隆	学芸員	11月 3日 (月・祝)	15
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会①		荒木 隆	学芸員	7月13日(日)	19
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会②		荒木 隆	学芸員	7月27日(日)	10
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会③		荒木 隆	学芸員	8月 3日(日)	20
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会④		荒木 隆	学芸員	8月10日(日)	10
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑤		荒木 隆	学芸員	8月17日(日)	7
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑥		荒木 隆	学芸員	8月24日(日)	8
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑦		荒木 隆	学芸員	9月14日(日)	5
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑧		荒木 隆	学芸員	10月12日(日)	9
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑨		荒木 隆	学芸員	11月16日(日)	5
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑩		荒木 隆	学芸員	12月14日(日)	3
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑪		荒木 隆	学芸員	1月11日(日)	6
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑫		荒木 隆	学芸員	2月 8日(日)	2
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	遺跡探訪解説会⑬		荒木 隆	学芸員	3月 8日(日)	8

## (8) 指導者向け研修

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
博物館利用指導者研修会			田中伸一ほか	学芸員	7月25日(金)	7

## (9) 実技講座

テ	ー	マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
「小旗をつくろう」			大野青峯 大野久子	伝統技術保持者	5月 5日 (土・祝)	6
「マタタビ蔓のそばザル作り1」			菅家藤一ほか	伝統技術保持者	7月 5日(土)	15
「マタタビ蔓のそばザル作り2」			菅家藤一ほか	伝統技術保持者	7月 6日(日)	15

## (10) 実演

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	半谷みどり	大堀相馬焼窯元 休閑窯	6月21日(土)	20
「昔語り」	横山幸子	語り部	9月13日(土)	30
「再現！縄文時代の編み組細工」	佐々木由香	考古学研究者	1月11日(日)	30
テーマ展関連「かるた大会」	阿部綾子	学芸員	3月28日(土)	50

## (11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
写真展「東北-風土・人・暮らし」記念講演会 飯沢耕太郎・赤坂憲雄対談「縄文の再生「東北-風土・人・暮らし」展を巡って」	飯沢耕太郎 赤坂憲雄	写真評論家 館長	4月19日(土)	90
企画展「アイヌの工芸」ギャラリートーク	小野哲也 阿部綾子ほか	標茶町教委学芸員 当館学芸員	7月19日(土)	50
企画展記念実演「アイヌのアットゥシ織」	二風谷民芸組合		7月20日(日)	94
企画展記念WS「アイヌ文様を刺繍しよう！」	二風谷民芸組合		7月20日(日)	39
企画展記念WS「作って鳴らそう！アイヌの楽器・ムックリ」	二風谷民芸組合		8月17日(日)	40
企画展記念映像とお話「アイヌとヒグマ」	田村将人 葛西真輔	札幌大学特認准 教授 知床財団管理研 究係主任	9月 6日(土)	36
企画展「アイヌの工芸」ギャラリートーク	小野哲也 阿部綾子ほか	標茶町教委学芸員 当館学芸員	9月15日 (月・祝)	42
特別展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介 高橋 充	当館学芸員	11月 1日(土)	83
特別展連携事業 会津美里町教育委員会歴史講座「観音信仰と会津美里町」	高橋 充	当館学芸員	11月 6日(木)	65
特別展関連講座「会津の観音講と安産祈願」	内山大介	当館学芸員	11月 8日(土)	65
特別展関連講座「東日本大震災と観音さま」	高橋 充	当館学芸員	11月11日(火)	70
特別展関連講座「酒田の傘福・会津のカサボコ」	内山大介	当館学芸員	11月22日(土)	41
特別展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介 高橋 充	当館学芸員	11月23日(日)	50
特別展連携事業 東北地方民俗学合同研究会・日本民俗学会談話会 シンポジウム『「めぐり」と民俗信仰』	内山大介	当館学芸員	12月 6日(土)	102
特別展関連講座「東北各地の観音札所めぐり」	高橋 充	当館学芸員	12月11日(木)	106
特別展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介 高橋 充	当館学芸員	12月14日(日)	45
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡一」解説会①	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	2月 7日(土)	65
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査15年の軌跡一」解説会②	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	2月14日(土)	8
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査16年の軌跡一」解説会③	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	2月28日(土)	12
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査17年の軌跡一」解説会④	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	3月 7日(土)	28
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡一」記念講演会	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	3月 8日(日)	145
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査18年の軌跡一」解説会⑤	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	3月 8日(日)	85
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査19年の軌跡一」解説会⑥	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	3月14日(土)	7
特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査20年の軌跡一」解説会⑦	會田容弘・学生	郡山女子大学短 期大学部准教授	3月22日(日)	20

## (12) ミュージアムイベント

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
玄如節と会津の民謡		玄如節顕彰会	6月15日(土)	62
会津磐梯山・市民盆踊り		会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(木)	300
夏休みナイトミュージアム	各分野学芸員	学芸員		60
クリスマスジャズライブ	Gt.羽賀秀樹 D.伊藤哲郎 B.高橋 修 Vo.ナルミ	羽賀トリオfeat.ナルミ	12月20日(土)	145

## (13) 共催事業

テ ー マ	団 体 名	担当学芸員	期 日	参加人数
森のはこ舟アートプロジェクトキックオフフォーラム～いま、森とアートを語る～ トークセッション「森林文化の再生と未来について」・アーティストトーク「森のはこ舟に何を乗せるか」ほか	森のはこ舟アートプロジェクト(県文化振興課)	川延安直 小林めぐみ	6月21日(土)	150
「森のはこ舟アートプロジェクト放射能勉強会」	森のはこ舟アートプロジェクト(県文化振興課)	川延安直 小林めぐみ	7月29日(火)	20
中央大学学術講演会「縄文時代の地域間交流ー東北・関東の遺跡調査からー」講師：小林謙一	中央大学	荒木 隆	11月16日(日)	78
放散虫研究集会(研究会)			11月29日(土)	43
2014放散虫研究集会会津大会 普及講演「ミクロな化石が語る地球環境の変遷史」	放散虫研究会	竹谷陽二郎	11月30日(日)	45
「めぐり」と民俗信仰	福島県民俗学会	内山大介	12月 6日(土)	102
「ふくしま復興への想いを込めて2015 from会津」	会津地方振興局	森 幸彦 二瓶浩伸	3月 7日(土)	600
『震災資料を考える1 会津セッション』 講演会「震災遺産を残す意義」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	高橋 満 森 幸彦	3月15日(日)	238

## (14) 後援事業

テ ー マ	主 催	講師所属等	期 日	参加人数
会津蒲生氏郷顕彰会 「蒲生氏郷ゆかりネットワーク」交流会	新城猪之吉	会津蒲生氏郷顕彰会	9月22日(月)	56
会津史学会歴史文化講演会 「地方史研究者へ贈ることば」	阿部隆一	歴史研究者	10月19日(日)	130
会津若松商工会議所女性会 レディース教養講座「ことばの力」	大沼えり子	作家・保護司	11月 7日(金)	150
会津史談会公開文化講座 「会津の和算」	船尾武彦	当館学芸員	11月27日(木)	78
子どもの本まつり in 福島	なかがわちひろ 工藤直子	絵本作家	3月22日(日)	80

## (※) 企画展・特集展内覧会(友の会)

写真展「東北ー風土・人・暮らし」	美術	川延安直	4月18日(金)	65
企画展「アイヌの工芸」	歴史・民俗	阿部綾子 内山大介	7月18日(金)	58
企画展「みちのくの観音さま～人に寄り添うみほとけ～」	歴史・民俗	高橋 充 内山大介	10月31日(金)	103
冬の特集展「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡ー」内覧会	郡山女子大学短期大学部准教授	會田容弘	2月 7日(土)	66



平成26年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 木曜の広場	12	1,249
(2) 考古学講座	9	282
(3) 民俗講座	5	339
(4) 歴史講座	3	153
(5) 自然史講座	3	78
(6) 保存科学講座	1	14
(7) ギャラリートーク	17	166
(8) 指導者向け研修	1	7
(9) 実技講座	2	36
(10) 実演	4	130
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	19	1,003
(12) ミュージアムイベント	4	567
(13) 共催事業	7	1,276
(14) 後援事業	5	494
(15) 企画展・特集展内覧会（友の会）	4	292
計	96	6,086



木曜の広場「はじまりの東北学」 5



木曜の広場「はじまりの東北学」 12



考古学講座「土器の野焼き」



考古学講座「Salon de Jomon」



最終講演会「佐々木長生学芸員半生(反省!?)を語る」



民俗学講座「ひな行事～流し雛と吊るし雛～」



歴史講座「歴史の中の遊び2 会津の板かるた」



「歴史の中の遊び3 戦国武将の嗜み」



自然史講座「化石をさがそう」



自然史講座「鶴ヶ城の野鳥」



実技講座「小旗作り」



実演「大堀相馬焼の絵付け」



実演「昔語り」



実演「再現！縄文時代の編み組細工」



ミュージアムイベント「クリスマスジャズライブ」



共催事業  
「ふくしま復興への想いをこめて2015 from 会津」



共催事業「震災資料を考える1 会津セッション」

## (2) 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

### A. 展示室での自主学习

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

#### (ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。

博物館見学のしおり

博物館を探検しよう! 来館日 平成 年 月 日  
学校名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_  
名前 \_\_\_\_\_

《見学のやくそく》  
●静かに見学する。 ●展示品にはさわらない。 ●展示室で飲食をしない。  
●展示室ではフラッシュをつかった写真さつえいをしない。 ●監視用カメラはエンビツをつかう。  
●質問は、係員の方に尋ねよう。 ●わからないことは、係員の方に尋ねよう。

総合展示

① 原始

★1 縄文を数10cmほりこんだこのような住居(竪穴)とよんでいます。  
Q. 縄文時代は、どんな道具をつかい、どんなものを食べていたのかな? それぞれ、2つずつ書いてみよう。  
(道具) \_\_\_\_\_ (食べ物) \_\_\_\_\_

★2 この人が右手にもっているものは[ ]です。  
Q. この道具をつかってなにをしていたのかな?  
\_\_\_\_\_

② 古代

★3 百瑠はむしの種力者の[ ]です。  
Q. 百瑠がみつかる「はにわ」には、さまざまなものがあります。どんなものがあるかな?  
\_\_\_\_\_

★4 おおくの百瑠から、さまざまな宝が見つかります。おもな宝として写す。4 三角縁神獣大鏡  
矢方...そしてこの鏡の[ ]などがはっくつされているのだ!  
ヒント: 下の3つのどれかだよ。  
[鏡、漆、土]

3 百瑠とはにわ

★5 の宝庫の空にはなにがはいていたのかな?  
\_\_\_\_\_

5 正堂

博物館見学のしおり


### (イ) ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。

ワークシート近現代№1

よく観察してみよう。きっといろいろなことが見えてくるよ。

●総合展示  
近現代E-7 15年戦争下の生活  
木炭バス



鉄道省では鉄道と鉄道、鉄道と港湾を結ぶバスや連絡船を運行していました。このバスは1938年(昭和13年)開業の省営バス(現JRバス)福筑線のうち、筑後～川後間を走っていたいすゞBX40をモデルとして復元したものです。

1941年(昭和16年)、戦争によって物資が不足してくると、バスのガソリン使用が禁止され、かわりの燃料を使って走る工夫がなされました。

Q1. このバスの後ろには、今の自動車には見られないものがあります。それはいったい何のための部品でしょうか。

Q2. 客席に座っている女の人は、どのような服装をしていますか。また、どのような持ち物を持っていますか。

ワークシート

### ○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」

14回 541名

・勾玉づくり 7回 207名

・火おこし 6回 303名

・石器で切ってみよう 1回 31名

「化石にふれてみよう (自然分野)」

1回 17名

「紙すきハガキづくり (民俗分野)」

5回 95名

「昔の道具体験 (民俗分野)」

5回 263名

「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」

4回 73名

合計 29回 989名



体験学習「火おこし」

### イ. 団体系験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制による「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」 「化石にふれてみよう (自然分野)」 「紙すきハガキづくり (民俗分野)」 「昔の道具体験 (民俗分野)」 「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」 の5つの団体系験学習プログラムを準備している。前年度(38回、802名)から実施回数は減少したが、人数は大幅に増加した。特に「原始・古代のワザに挑戦」の「火おこし」は体験人数が前年比450%以上の増加となった。また小学3年生の授業と連動した内容となっている「昔の道具体験」は前年度同様に高い人気を誇り、体験人数も前年比150%の増加となった。



体験学習「昔の道具にふれてみよう」

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。

平成26年7月25日(金) 参加者7名  
(小学校教員5名 公民館職員2名)



博物館利用指導者研修会「バックヤード見学」

平成26年度博物館利用指導者研修会プログラム

時 間	内 容	担 当	場 所
9:30～9:45	受付	学習支援班	視聴覚室前
9:45～10:20	開講式	学習支援班 (田中伸一)	視聴覚室
	研修Ⅰ「博物館の学習支援活動のご案内」		
10:20～10:50	研修Ⅱ「常設展の展示見学」	展示解説員	常設展示室
11:00～11:30	研修Ⅲ「化石にふれてみよう」	自然分野 (相田 優)	実習室
11:30～12:00	研修Ⅳ「博物館バックヤードの見学」	学習支援班 (田中伸一)	バックヤード
－昼食－			
13:00～13:30	研修Ⅴ「模造品の火縄銃や刀にふれてみよう」	歴史分野 (佐藤洋一)	視聴覚室
13:30～14:20	研修Ⅵ「学芸員による企画展の展示解説」	民俗分野 (内山大介)	企画展示室
14:30～15:30	研修Ⅶ「勾玉づくり体験とその学習効果について」	考古分野 (森 幸彦)	実習室
15:30～15:45	閉講式	学習支援班	実習室

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

- ・化石岩石採集・クリーニング用具 42点  
会津若松市立第二中学校

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実 施 先	科 目
5月16日	佐々木長生	民俗	地域の宝物紹介 ～奥会津金山の自然とくらし～	福島県立川口高等学校	総合的な学習の時間
5月24日	田中 敏 荒木 隆 高橋 満	考古	勾玉づくり	会津若松市立日新小学校	社会
6月19日	田中伸一	歴史	会津から世界へ～見つけよう宝人～	会津若松市立東山小学校	総合的な学習の時間
10月10日	相田 優	自然	環境教育－自然に学ぶ	慈光第二幼稚園	行事
12月 5日	田中伸一	歴史	会津の偉人～戊辰戦争を経験した人々～	喜多方市立姥堂小学校	行事
12月10日	田中伸一	歴史	会津の偉人～戊辰戦争を経験した人々～	会津若松市立門田小学校	行事
1月21日	田中伸一	歴史	会津の偉人～戊辰戦争を経験した人々～	会津若松市立北会津中学校	総合的な学習の時間
2月17日	二瓶浩伸 大里正樹	民俗	昔の道具	会津若松市立一箕小学校	社会
3月18日	田中伸一	学習支援	職業について考える (学芸員の仕事)	会津若松市立第五中学校	総合的な学習の時間



ゲストティーチャー（北会津中学校）



職場体験「古文書の整理作業」

### カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成26年度は6校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- ・福島県立会津養護学校  
（2年生：1名）2日間
- ・福島県立若松商業高等学校  
（2年生：5名）2日間
- ・会津若松市立一箕中学校  
（2年生：5名）2日間
- ・会津若松市立第一中学校  
（2年生：5名）2日間
- ・会津若松市立第四中学校  
（2年生：3名）2日間
- ・会津若松市立河東中学校  
（2年生：2名）2日間

### キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成26年度は県内出身および県内大学に在学する学生11名を受け入れた。演習「体験学習メニューの企画立案」では、3班に分かれて新しい体験学習メニューを企画した。実際に実施することを想定しながら、プレゼンテーション形式で発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間 8月26日(火)～8月31日(日)

#### 実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人数
1	新潟大学	2
2	筑波大学	1
3	聖徳大学	1
4	東洋大学	1
5	日本大学	1
6	立正大学	1
7	郡山女子大学短期大学部	3
8	山形県立米沢女子短期大学	1
	合 計	11

#### 博物館実習プログラム

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 26日 (火)	8：50～9：00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸一）	第2会議室
	9：00～9：10	実習生紹介	学習支援班（田中伸一）	事務室
	9：10～9：40	オリエンテーション	学習支援班（田中伸一）	第2会議室
	9：50～10：50	福島県立博物館の概要	企画運営班（田中敏）	視聴覚室
	11：00～11：30	博物館の企画運営・展示	企画運営班（田中敏）	視聴覚室
	11：30～12：00	博物館の学習支援活動	学習支援班（森）	視聴覚室
	— 昼 食 —			
	13：00～13：30	博物館の資料と調査研究	資料整理班（相田）	第2会議室
	13：30～14：00	博物館の広報普及活動	広報班（佐藤）	第2会議室
	14：00～14：30	博物館の展示	展示班（荒木）	第2会議室
	14：40～16：00	常設展・企画展の自由見学	学習支援班（田中伸一）	展示室
	16：10～17：00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（森・田中伸一）	第2会議室

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
27日 (水)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	9:10~12:00	自然資料の取り扱い	自然分野 (相田・船尾・竹谷)	第2収蔵庫
	— 昼 食 —			
	13:00~15:50	民俗資料の取り扱い	民俗分野 (佐治・二瓶・内山・大里・佐々木)	第1収蔵庫ほか
	16:00~16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班 (相田・相原・竹内)	図書室
	16:30~17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
28日 (木)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	9:10~12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野 (阿部・竹内)	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00~15:50	考古資料の取り扱い	考古分野 (田中敏・森・荒木・高橋満)	実習室
	16:00~16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班 (相田・相原・竹内)	図書室
	16:30~17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
29日 (金)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	9:10~12:00	美術資料の取り扱い	美術分野 (川延・小林・金澤)	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00~15:50	資料の保存	保存科学分野 (杉崎)	実習室
	16:00~16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班 (相田・相原・竹内)	図書室
	16:30~17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
30日 (土)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	9:10~12:00	演習① (体験学習メニューの体験)	学習支援班 (森・田中伸一) 考古分野	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00~16:20	演習② (前時の続き・体験メニューの企画立案)	学習支援班 (森・田中伸一) 歴史分野	第2会議室
	16:30~17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
31日 (日)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	9:10~12:00	演習③ (体験メニューの企画立案・発表準備)	学習支援班 (森・田中伸一)	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00~15:30	演習④ (発表・意見交換)	学習支援班 (森・田中伸一)	実習室
	15:30~16:00	実習を終えて (感想・意見交換)	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室
	16:10~17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (森・田中伸一)	第2会議室



博物館実習「考古分野」



博物館実習「体験学習メニューの企画・立案」

### (3) 生涯学習・研究支援

#### ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。平成25年度までに2,890冊を配架していたが、書架が満配となったため、今年度は利用度が低いと思われる284冊を降ろした上で22冊を加え、合計2,628冊の配架となった。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。



相談コーナー

#### イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：3件 歴史：24件124点

自然：1点 美術：3件 15点

#### ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成26年度の派遣回数は12回であった。



講師派遣「会津の和算」

#### 講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
1	4月24日	森 幸彦	総合	一箕地区の歴史	一箕小学校
2	4月25日	阿部綾子	歴史	松平容大の斗南道中記	全会津語りの会
3	6月 7日	高橋 充	学習支援	博物館実習事前指導	福島大学
4	6月11日	田中伸一	歴史	磐越西線100年のあゆみ	会津方部高等学校地理歴史・公民科（社会科学）研究会
5	7月27日	田中 敏	考古	弥生時代の会津盆地	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
6	7月30日	佐々木長生	民俗	会津のろうそくを考える	会津美里町公民館
7	8月24日	佐藤洋一	歴史	安積良斎と川前紫溪	三春町歴史民俗資料館友の会
8	9月11日	内山大介	歴史民俗	観音信仰と会津美里町	会津美里町教育委員会
9	10月22日	船尾武彦	自然	会津の和算	会津美里町公民館
10	11月 6日	高橋 充	歴史民俗	観音信仰と会津美里町	会津美里町教育委員会
11	11月 8日	大里正樹	民俗	会津の年中行事（大戸地区を中心として）	会津若松市大戸公民館
12	12月 5日	内山大介	民俗	会津の建築と職人たち	会津若松市北公民館
13	12月12日	竹谷陽二郎	自然	棚倉城跡の石材についての調査	棚倉町教育委員会
14	3月27日	小林めぐみ	美術	文化の断絶の危機に博物館は何ができるのか	日本博物館協会研究協議会



#### (4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

#### ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成27年3月26日に開催した。平成26年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成27年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成26年度会員数

個人会員 : 244 家族会員 : 100

高校生会員 : 0 賛助会員 : 6

合計 : 350名

#### イ. 平成26年度事業概要

##### (ア) 研修旅行

○「春の研修旅行」『風薫る宮城路の旅』

研修先：宮城～白石城、旧伊達藩邸鐘景閣、仙台市博物館など

期 日：平成26年5月22日

参加者：39名

○「秋の研修旅行」

『秋の千葉 歴史と文化の旅』

研修先：千葉～1日目：伊能忠敬記念館  
成田山新勝寺

2日目：月の沙漠記念館  
ホキ美術館など

期 日：平成26年10月9日～10日

参加者：29名

春と秋の2回の研修旅行を実施した。春の旅はあいにく小雨であったが、ゆったりとした計画

で、各見学地で充実した鑑賞ができた。秋は、1泊2日の日程で千葉を訪ねた。中でもホギメディカル創業者である保木氏が経営するホキ美術館は、日本初の写実絵画専門美術館であり、多くの参加者が感動の言葉をアンケートに寄せた。

#### (イ) 会報の発行

年4回(季刊)、会報を発行し会員に配布した。会員の文化活動を紹介する記事を充実させ、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

#### (ウ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

平成26年度友の会会員入館者数

常設展471件 企画展534件

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月18日(金)：「東北一風土・人・くらし」  
内覧会 42名参加

7月18日(金)：「アイヌの工芸」内覧会  
53名参加

10月31日(金)：「みちのくの観音様」  
内覧会 123名参加

2月6日(金)：「発掘ガール」内覧会  
66名参加

○博物館講座への協力

博物館講座へ多くの会員が参加した。

#### ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、道ばた文化財研究会の3サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。なお、道ばた文化財研究会が中心メンバーの会引退により、今年度をもって解散となった。

##### 1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成26年度は次の活動を行った。

①4月13日 高広林道裏での化石採集

②5月25日 山口鉱山での鉱物採集

③6月15日 水引鉱山での鉱物採集

④7月6日 三川鉱山での鉱物採集

⑤8月24日 昭和村での化石採集

⑥10月5日 唐戸屋鉱山での鉱物採集

⑦12月7日 鉱物研修会

⑧平成27年3月8日 講演会

講師：県立博物館 竹谷 陽二郎

## 2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20～30名が参加し、活動を続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。平成26年度は前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であるため、解説

を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。

## 3. 道ばた文化財研究会

年4回の定例会を実施し、その中で文化財を鑑賞する旅行や研修会、忘年会などを実施している。

第1回例会：郡山方面桜鑑賞会

第2回例会：千葉・東京

ミュージアムめぐり

第3回例会：鏡石町田んぼアート見学

第4回例会：市内ハート石稻荷神社めぐり

第5回例会：忘年会



「アイヌの工芸」友の会内覧会



「みちのくの観音さま」友の会内覧会



秋の研修旅行（伊能忠敬記念館・佐原の町並み）



秋の研修旅行（成田山新勝寺）

## 6. 広報公聴活動および出版事業

## (1) 広報活動

## ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

## 平成26年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「アイヌの工芸」 2,400枚 企画展「みちのくの観音さま」 3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「東北－風土・人・くらし」 5,000枚 企画展「アイヌの工芸」 30,000枚 企画展「みちのくの観音さま」 50,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.4cm 四つ折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
はくぶつかんニュース	A4両面 (館内印刷)	12,600枚×12回=151,200枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・中学校 県内図書館・公民館・教育施設 県内市町村教育委員会 県教育事務所
月行事予定表	A4 (館内印刷)	1,400枚×12回=16,800枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
プレス・リリース (企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

## イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

## 広告掲載一覧

展 示 会	看板(駅前・博物館周り)	新 聞
春の企画展「写真展 東北一風土・人・暮らし」	○	—
夏の企画展「アイヌの工芸」	○	—
秋の企画展 「東日本大震災復興祈念 みちのく観音さま 人に寄り添うみほとけ」	○	—

## ウ. ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

## 平成26年度ホームページアクセス件数（ページ数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
32,082	31,427	30,770	33,615	36,432	30,517	35,336	35,939	30,587	31,672	28,002	28,790	385,169



博物館だより第113号

## エ. ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、展示やイベントなどの情報のほか、研究成果などを、マスコミ向けに発信している。

平成26年度：Vol.137～Vol.140

## オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

## (ア) 春の企画展

「写真展『東北一風土・人・暮らし』」

- ・福島民報「東北の風土 写真で紹介 県立博物館きょうから企画展」(4月19日記事)
- ・福島民友「東北の魅力 写真で紹介 きょうから県立博物館で企画展」(4月19日記事)
- ・福島民友「東北の魅力語り合う 写真展に合わせ県立博物館」(4月21日記事)

## (イ) 夏の企画展

「アイヌの工芸

東北のコレクションを中心に」

- ・福島民報「アイヌの魅力一同に 県立博物館 きょう工芸品展開幕」(7月19日記事)
- ・福島民友「アイヌの文化資料展示 きょうから県立博物館」(7月19日記事)
- ・福島民報「会津藩ゆかり 絵巻、屏風を展示素朴な衣類、儀礼具163点 県立博物館アイヌ工芸品展開幕」(7月20日記事)
- ・福島民友「樺太出兵絵巻など展示 県立博物館「アイヌの工芸」開幕」(8月26日記事)
- ・福島民友「アイヌ楽器作り挑戦 県立博物館の企画展」(8月31日記事)

## (ウ) 秋の企画展

「東日本大震災復興祈念 みちのくの観音さま 人に寄り添うみほとけ」

- ・福島民友「信仰の象徴 東北の観音像 特別展きょう開幕 県立博物館」(11月1日記事)
- ・福島民報「東北の文化財に再生祈る きょうから「みちのく観音さま」展 県立博物館」(11月1日記事)
- ・福島民友「貴重な仏像など並ぶ 若松で文化財特別展示」(11月2日記事)
- ・福島民報「東北の文化財一堂に「観音さま」展開幕 坐像や御正躰120点 県立博物館」(11月2日記事)
- ・福島民友「伝わる先人の祈り「みちのくの観音さま」展 東北各地の仏像40点展示 県立博物館で12月14日まで」(11月2日記事)
- ・福島民報「東北の観音菩薩像紹介 特別展「みちのくの観音さま」から福島の古代を探る 県立博物館」(11月29日記事)
- ・福島民友「心安らぐ仏像の表情 観音信仰に焦点 社寺や地域の歴史も紹介」(12月1日記事)
- ・福島民報「安産、子育て見守る仏 特別展「みちのくの観音さま」女性が支える東北の観音信仰」(12月6日記事)

(エ) 特集展

- ・福島民友「磐越西線100年史知って 若松の県立博物館 開通記念で特集展」(5月28日記事)
- ・福島民報「磐越西線100年の記録 若松で開幕 写真や制服など200点」(5月28日記事)
- ・福島民報「7日から「発掘ガール」郡山女子大短期大学部 石器や土器1000点、解説も 県立博物館」(1月31日記事)

(オ) テーマ展

- ・福島民報「富岡で出土した土器紹介 県立博物館で展示解説会」(7月28日記事)
- ・福島民友「遺跡に学ぶ富岡の歴史 県立博物館で考古資料展」(8月14日記事)
- ・福島民報「会津藩絵師の代表作など展示 県立博物館でテーマ展 2月まで」(12月21日記事)

(カ) 催し物

- ・福島民報「赤坂館長「はじまりの東北学」原発事故の差別など語る」(4月27日記事)
- ・福島民友「保存に科学の力 県立博物館が講座」(4月30日記事)
- ・福島民友「伝統芸能の世界に誘う 県立博物館で玄如節と民謡」(6月18日記事)
- ・福島民報「玄如節、会津民謡 伝統の世

界 若松県立博物館でイベント」(6月24日記事)

- ・福島民友「クリスマスソング満喫 県立博物館でイベント」(12月23日記事)
- ・福島民友「本県に自然史博物館を県立博物館長らが訴え 沿岸部の再生には不可欠」(館長講座の一環 2月27日記事)
- ・福島民報「「自然史博物館」設置を 赤坂県立博物館長復興に必要と訴え」(館長講座の一環 2月28日記事)

(キ) その他

- ・福島民友「博物館、美術館に行こう 大型連休で多彩な企画展」(4月22日記事)
- ・福島民友「「震災と芸術」考える「森のはこ舟アートプロジェクト」スタート」(6月22日記事)
- ・福島民友「漆や美術作品一堂に 10月から若松で芸術祭」(実行委員会に県立博物館も入っている 8月18日記事)
- ・福島民報「福島民報紙面震災遺産に教訓伝える「歴史資料」浪江の販売センターから回収 発生翌日 数千部 県立博物館などのプロジェクト」(10月1日記事)
- ・福島民友「情報発信へ一丸 若松で総会 日本博物館協支部、東北地区博物館協」(10月3日記事)
- ・福島民友「「文化の被災」情報共有 県立博物館長赤坂氏が講演」(11月11日記事)
- ・福島民友「湯川の歴史を理解「米と文化の里」講演会」(高橋充学芸員が講師 11月16日記事)
- ・福島民友「東北、関東の縄文時代解説 若松・県立博物館で講演会」(11月19日記事)
- ・福島民報「自然史博物館が必要だ 赤坂憲雄 日曜論壇」(1月4日記事)
- ・福島民友「被災パトカー後世に 保存へ移転作業開始 3月上旬にも展示」(ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動 1月16日記事)
- ・福島民報「震災後の役割探る 館長学芸員ら対談 美術や自然テーマに 県立博物館「未来を語る」講座開始」(1月16日記事)
- ・福島民友「博物館の役割考える 被災地文化支援を紹介 若松で講座」(1月17日記事)
- ・福島民報「多彩な才能、歩みに光 ゆかりの地で観て聴く浦上玉堂の世界 猪苗代始まりの美術館」(川延学芸員が対談 1月27日記事)

- 福島民友「JR富岡駅「震災遺構」に富岡町駅名標、改札を保存」(「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」関連 2月24日第1面記事)
- 福島民友「町の傷痕忘れない「震災遺構」保存進む 富岡駅生活の記憶語り継ぐ」(「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」高橋満学芸員のコメント掲載 2月24日記事)
- 福島民報「津波被災……あの日のままに町が地元保存へ JR富岡駅改札口や駅名標 駅舎は解体」(「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」関連 2月25日記事)
- 福島民友「鎮魂と希望を胸に 若松・県立博物館で復興イベント」(3月9日記事)
- 福島民報「復興願う心一つに 想いを込

めてfrom会津「相馬流山」演舞と合唱 大熊の児童が披露」(3月9日記事)

- 福島民友「震災遺産収集、調査急ぐ「風化に歯止めをかける」ふくしま震災遺産保全プロジェクト 高橋満氏」(3月11日「フォーカスインタビュー」記事)
- 福島民友「震災見つめ直す 若松で資料展示や講演会」(「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」関連 3月16日記事)

## (2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成26年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

### 平成25年度アンケート実施行事

分類	行事
企画展	写真展 東北—風土・人・くらし—
	アイヌの工芸 東北のコレクションを中心に
	みちのくの観音さま 人に寄り添うみほとけ
特集展	磐越西線100年のあゆみ
	発掘ガール—郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡—
ミュージアムイベント	玄如節と会津の民謡
	クリスマスコンサート

## (3) 出版事業

平成26年度は次の出版物を刊行した。

### ア. 企画展図録

福島県立博物館企画展図録

「アイヌの工芸—東北のコレクションを中心に—」展示図録 1,500冊

### イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第29号 600冊

### ウ. 年報

福島県立博物館年報 第28号 400冊

## 7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

### 1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

### 2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

### 3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成26年度は次の事業を実施した。

#### (1) 文化財レスキュー

##### ア. 文化財・資料の受け入れ対応

###### (ア) 平成23年度以後受け入れ分への対応

前年度から継続して、臨時労務員2名が整理作業等に当たった。

###### (イ) 平成26年度受け入れ分

平成26年度に、震災関連で新たに受け入れた資料はなかった。

###### (ウ) その他

東日本大震災発生から3年が経過し、震災の直接的な被害とはいえないものの、こ

の機会に蔵を取り壊す、あるいは建て直すというケースがあり、蔵の中の資料の調査や、民具などの整理作業の指導の要請があった。

#### イ. 旧警戒区域の資料への対応

##### (ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局)が中心となって行った(打ち合せ・幹事会など8回実施)。文化庁、文化財防災ネットワーク推進本部の支援指導を受けた。

##### (イ) 旧警戒区域内資料館資料の梱包・搬出作業

「救援本部」の計画にしたがって、双葉高校の収蔵資料の線量計測・記録・梱包・搬出、一時保管場所への搬入作業に参加した。9月に現況調査(1回)、10月・1月に搬出作業を2回実施した。

##### (ウ) 保管施設の環境調査

旧警戒区域から運び出された資料の一時保管場所となっている旧相馬女子高校教室の環境調査を当館保存担当職員が中心となって実施した。8回(のべ15日)。調査項目は、温湿度、ガス濃度(有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニア)、文化財害虫。また、前年度に救出された資料を保管する福島県文化財センター白河館(まほろん)の仮収蔵庫の環境調査にも協力した(1回)。

##### (エ) その他の資料・文化財への対応

旧警戒区域が再編され、部分的に立ち入りが可能になった地域には、震災後から取り残されたままの文化財・資料があり、それらへの対応について個別に協力を要請されることがあった。対応のしかたは、以下の通りケースに応じてさまざまであった。

###### ①南相馬市神社資料

南相馬市小高区の神社の絵馬殿にある和船模型・絵馬(県指定)などを、管理上の問題から、旧相馬女子高校へ搬送した(6月)。

###### ②南相馬市個人所蔵資料

南相馬市小高区の個人宅の蔵の解体撤去に伴い、近代資料などを搬出した(2月)。資料は南相馬市博物館が受け入れ、クリーニング・整理などが行われる予定。

## ③双葉町寺院資料

仏堂内の資料の現況調査等を行い、搬出のための計画を立てた（7月）。

## ④浪江町文化財調査への協力

浪江町が実施する文化財等の所在確認調査に同行して、調査に協力した（2月）。

## ウ. 資料の展示公開ほか

## (ア) 展示公開

- ①当館テーマ展「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」（平成25年度～平成26年5月11日）
- ②当館テーマ展「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」（平成26年6月17日～平成27年5月10日）
- ③当館テーマ展「相馬家の婚礼道具 南相馬市同慶寺所蔵の漆工品」（平成26年7月19日～8月24日）

## (イ) 研修会

10月2日～3日に福島県博物館連絡協議会・日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会合同の研修会「東日本大震災後の福島県の文化施設」が開催された（会場：福島県立博物館・福島県文化財センター白河館）

## エ. 今後の見通しと課題

(ア) すでに受け入れた文化財・資料への対応（継続）

(イ) 旧警戒区域からの文化財・資料の搬出・保全（継続）

- ①双葉町歴史民俗資料館からの資料搬出
- ②個人所有資料の保全
- ③救出された文化財・資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・資料の展示公開（継続）

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備



神社の和船模型の搬出作業（6月11日 南相馬市）



蔵の中の民具の整理指導（6月15日 いわき市）



旧相馬女子高校での環境調査（8月7日 相馬市）





双葉高校資料の搬出準備作業（9月30日 双葉町）



双葉高校資料の搬出作業（10月30日 双葉町）

## （2）ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

### ア. 玄如節と会津の民謡

（ア）日 時

平成26年6月14日（木）13：30～15：00

（イ）会 場

福島県立博物館 エントランスホール

（ウ）参加者数

約62人

（エ）共 催

玄如節顕彰会の皆さん

（オ）内 容

玄如節は、即興の掛合で歌うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、玄如節を中心とした会津の民謡と、東北各県の民謡を、唄と踊りをまじえて披露した。

### イ. 市民盆踊り大会

（ア）日 時

平成26年8月15日（金）19：00～20：30

※博物館閉館後

（イ）会 場

福島県立博物館 玄関前庭

（ウ）参加者数

300人

（エ）共 催

会津磐梯山盆踊り保存会

（オ）内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

### ウ. 夏休みナイトミュージアム

（ア）日 時

平成26年8月23日（土）17時30分～19時

（イ）会 場

福島県立博物館企画展示室・講堂

（ウ）参加者数

60人

（エ）講 師

当館学芸員

相田優・船尾武彦・竹谷陽二郎

（オ）内 容

いつもと違う雰囲気真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。定員制で実施しているが、より多くの方々に参加していただける内容を検討したい。

### エ. クリスマスジャズライブ

（ア）日 時

平成26年12月20日（土）13時30分～15時

（イ）会 場

福島県立博物館エントランスホール

（ウ）参加者数

145人

（エ）出 演

芳賀トリオfeat.ナルミ

（オ）内 容

会津若松市を中心に活動する、結成25年のジャズバンドによるクリスマスライブ。美しい歌声と軽快な演奏で会場を盛り上げていただいた。

### (3) 復興応援パートナー事業

平成24年度に立ち上げた「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」の3つの目標のうち、下記を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

#### ◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

#### 3. 被災者支援のための文化的事業の開催

- (1) 被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催
- (2) 各種団体が企画する支援文化事業の受け入れおよび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらを楽しむ機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも目的とする。

#### 復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	日時	会場
1	ふくしま復興への思いを込めて2015 from会津	会津地方振興局	3月7日(土)	講堂 体験学習室 エントランスホール
2	子どもの本まつり in 福島	なかがわちひろ・工藤直子	3月22日(日)	講堂

### (4) はま・なか・あいづ

#### 文化連携プロジェクト2014

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興に取り組む福島県において文化事業に携わる大学・NPO・博物館などが参加する実行委員会により運営する。自らの文化力を高め、郷土への誇りと自信を回復し、さらに、福島県の文化状況を広く県内外に発信することで日本の文化発展にも寄与しようとする。福島県内の文化施設、公共スペースを活用しつつ、展覧会、滞在制作、フォーラム、ワークショップ等を実施し、県を横断する文化ネットワークの構築を目指す。福島の文化を再発見し、伝えること。新たに創造すること。福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。そのために、2014年度は9プロジェクトを実施した。

#### ア. 主催

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体（南相馬市博物館・福島大学芸術による地域創造研究所・いいたてまでの会・NPOまちづくり喜多方・南相馬市国際交流協会・南相馬市市民活動サポートセンター・特定非営利活動法人西会津ローカルフレンズ・福島県立博物館）

#### イ. 助成

平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

#### ウ. 事業内容

##### (ア) 福島祭創造プロジェクト

##### ・南相馬祭り創造プロジェクト

アーティスト：開発好明

主な活動場所：南相馬市

うままつり

会期：2014年11月15日(土)～11月16日(日)

10：00～16：00

\*15日はドキュメンタリー映画上映のみ

20：00まで

会場：朝日座（南相馬市）

出演：坂本頼光（活動写真弁士）、大口俊輔（作曲・ピアノ）、小林武文（作曲・パーカッション）、鈴木広志（作曲・サクソフォーン）、江口良子（サクソフォーン）、開発好明（ディレクション・ワークショップ講師）

共催：筑波大学創造的復興プロジェクト

後援：南相馬市、南相馬市教育委員会

協力：朝日座を楽しむ会、南相馬市市民活動サポートセンター、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

#### 趣旨

福島県を代表する伝統行事の相馬野馬追は南

相馬市の人々の誇りである。郷土の誇りである「馬」に親しめる祭りを創出することを目的に、震災直後から被災地各地でアートサポートを重ねたコミュニケーションアーティスト開発好明氏の提案から「うままつり」は始まった。会場の「朝日座」は大正12年開館し大衆娯楽の殿堂として親しまれた。同館は震災後、数多くのイベントを開催し地域の文化拠点に成長している。本事業は朝日座を守る会の全面的な協力を得て、開発氏のディレクションにより、活弁を交えた無声映画、筑波大学創造的復興プロジェクト制作の「いわきノート」など震災の記憶を映像化した作品を上映した。ロビーでは南相馬市内の仮設住宅の方々が日々制作している手作りの品々を陳列、南相馬市有志の方のワークショップ参加もあった。隣設の駐車場では南相馬市の野馬追関係者から二頭の馬をお借りし、子供たちを対象に乗馬体験、開発氏ののぼり旗制作ワークショップを行なった。また慶応大学加藤文俊氏のコミュニケーションワークショップ「カレーキャラバン」も加わり会場に賑わいを添えた。

開催にあたっては開発氏と実行委員会、地域のアート支援者・幼稚園教諭・市民団体・仮設住宅の方々・牧場経営者など南相馬市民との対話を重ねた。

南相馬市鹿島区北屋形の神楽再興をサポートする事業は3年目となり、祭礼での神楽奉納を継続する当初の目的を達成しつつある。昨年度は北屋形の方々と神楽再興を果たし今年度は永続的な神楽継承の視点で地域の方々とミーティングを行い、開発氏が制作した発泡スチロール製獅子頭に本格的漆塗装を施した。今後は北屋形地区外での公演も話題に上がっている。

#### ● 飯舘村田植え踊り再興プロジェクト

アーティスト：小野良昌

主な活動場所：福島市、飯舘村

田植え踊り境野家公演

日時：2014年12月11日(木)14:55~15:45

会場：境野邸(福島市飯野町)

踊り指導・伴奏：飯舘村飯樋町田植え踊り保存会の皆さん

着付け協力：飯舘村飯樋町の皆さん

協力：いいたてまでの会

構成協力：小林由佳(振付師・ダンサー)、服部晴子(振付師・ダンサー)

撮影協力：木下裕子

撮影：小野良昌

趣旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放

射能汚染により全村避難となった飯舘村では時間の経過とともに避難先での文化の継承が危惧される。これに対し飯舘村立飯舘中学校では2013年からふるさと学習に取り組み、1年生は田植え踊り、2年生は昔話、3年生は食文化を学んでいる。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、2013年度から引き続き、1年生の田植え踊り学習の映像記録と、田植え踊りの本来の意義を子どもたちが理解・体験することを目的に中学校が仮移転している福島市飯野町の古民家での公演を支援した。

#### (イ) 福島写真美術館プロジェクト

##### ● 南相馬環境記録プロジェクト

アーティスト：片桐功敦

主な活動場所：南相馬市、相双地区

##### ● 福島環境記録プロジェクト

アーティスト：赤坂友昭

主な活動場所：三島町、伊達市、南相馬市、相双地区

##### ● 南相馬住まいの記憶プロジェクト

アーティスト：安田佐智種

主な活動場所：南相馬市、相双地区

##### ● 福島の水源をたどるプロジェクト

アーティスト：本郷毅史

主な活動場所：西郷村

##### ● 福島写真美術館プロジェクト成果展いわき

会期：2014年11月1日(土)~11月29日(日)

会場：もりたか屋(いわき市)

##### ● トークセッション「福島・写真・記録」

日時：2014年11月29日(日)13:30~15:00

会場：もりたか屋(いわき市)

講師：安田佐智種、本郷毅史

モデレーター：赤坂憲雄

##### ● 福島写真美術館プロジェクト成果展福島

会期：2014年12月6日(土)~12月21日(日)

会場：ふくしまキッチンガーデンビル2階

(福島市)

##### ● フォーラム「福島で撮る」

日時：2014年12月20日(土)13:30~16:30

会場：ふくしまキッチンガーデンビル2階

(福島市)

基調講演「福島写真美術館の可能性」

講師：飯沢耕太郎(写真評論家)

ディスカッション「福島で撮る」

講師：赤坂友昭、片桐功敦、野口勝宏(写真家)、小原一真(フォトジャーナリスト)

モデレーター：飯沢耕太郎(写真評論家)

趣旨

東日本大震災後、写真はいち早く芸術表現の諸分野の中で成果を上げた。その可能性への信

頼・期待から始まった本プロジェクトの2014年度は、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地である南相馬市、浪江町、奥会津地方の三島町、福島県を貫流する阿武隈川の源流がある西郷村で撮影、制作が行われた。華道家・片桐功敦氏は鎮魂と慰霊の祈りを込めて活けた被災地の草花を記録、写真家・赤阪友昭氏は県内の自然環境の多様性を野生動物の視点を交えて探り、アーティスト・安田佐智種氏は流出家屋の基礎に残る記憶の気配を微細に追い、写真家・本郷毅史氏は人の命の源である水の流れの源流を訪ねた。

いわき市、福島市で成果展を開催。会期中にいわき市会場では赤坂憲雄実行委員会委員長と参加作家の安田佐智種氏、本郷毅史氏の鼎談、福島市会場では、参加作家の赤阪友昭氏、片桐功敦氏に加え、郡山で活動する写真家・野口勝宏氏、フォトジャーナリスト・小原一真氏と写真評論家・飯沢耕太郎氏をお招きしてのフォーラムを開催した。

#### (ウ) 岡部昌生フロタージュプロジェクト

アーティスト：岡部昌生

主な活動場所：南相馬市、飯舘村、大熊町、石川町

#### ● 札幌ラウンドテーブル 札幌で語る〈近代〉

日時：2014年9月13日(土) 13:30~16:30

会場：札幌市資料館(札幌市)

講師：岡部昌生、港千尋(多摩美術大学教授・写真家)、管啓次郎(明治大学大学院教授・詩人)

ゲスト：佐藤友哉(札幌芸術の森美術館長)

報告者：二上文彦(南相馬市博物館学芸員)

#### ● 奔別トークセッション 北海道/福島・炭鉱/アート

日時：2014年9月14日(日) 13:00~16:00

会場：旧住友奔別炭鉱選炭施設石炭積出ホッパー作品展示会場(三笠市)

講師：岡部昌生、渡邊晃一(福島大学教授・美術家)

ゲスト：港千尋(多摩美術大学教授・写真家)、管啓次郎(明治大学大学院教授・詩人)、吉岡宏高(NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長)

#### 趣旨

南相馬市を中心に、アーティスト岡部昌生がフロタージュ作品の制作と地域のリサーチ、地域住民、イベント参加者との対話を通して東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所災害の記憶をとどめ、さらに南相馬、周辺地域の有史以前の歴史にも触れる。

2014年度は南相馬市から大熊町、飯舘村、石

川町へ活動範囲を上げた。大熊町では同町教育委員会とともに行動し限られた活動時間の中で効率的な制作に努めた。飯舘村では同村の歴史研究者の協力、指導を得て石造文化財を中心にフロタージュ作品を制作した。また、昨年の広島市に続き9月13日には北海道札幌市で札幌国際芸術祭連携事業として管啓次郎氏、港千尋氏らを招きラウンドテーブル、翌14日には三笠市の旧住友奔別炭鉱で吉岡宏高氏らを加えトークセッションを行った。近代を支える産炭地としての北海道の歴史に石炭と電力の供給地であった福島の近現代を重ねる対話が繰り返され、福島を開発とエネルギーの視点から横断する視野が定まった。

その後、大熊町、石川町で第二次リサーチ、制作を実施。大熊町では同町教育委員会、地域史研究団体「ふるさと塾」、石川町では石川町立歴史民俗資料館の指導・協力のもと近代の製炭試験場、鉱物採掘場跡地をリサーチ、フロタージュ作品を制作した。2月にはこれまでの制作作品の撮影、目録化を行った。

#### (エ) 「黒塚」発信プロジェクト

アーティスト：渡邊晃一

ゲストアーティスト：平山素子、高明

主な活動場所：福島市、二本松市、浪江町

#### ● 「黒と朱」完成上映会+トークセッション「黒塚」

日時：2014年11月29日(土) 17:00~19:00

会場：ポレポレいわき(いわき市)

講師：渡邊晃一、平山素子、高明

モデレーター：赤坂憲雄

#### ● 「黒と朱」完成上映会+トークセッション「黒塚」

日時：2015年2月28日(土) 18:00~20:00

会場：フォーラム福島(福島市)

講師：平山素子、高明

モデレーター：渡邊晃一

#### 趣旨

福島大学渡邊晃一教授の提唱で始まったふくしまダンスプロジェクト「安達ヶ原」は、2014年度「黒塚」発信プロジェクトとして継続した。福島発の文化発信を目的とした本プロジェクトは、舞台公演までには多くの課題を残しているが、本年度は映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を制作し、黒塚をテーマとした公演に向け一歩を踏みだした。昨年度取り組んだ「黒塚」理解のためのフォーラムの成果を活かし、コンテンポラリーダンサー・平山素子氏主演、高明監督による映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を福島県二本松市にある黒塚ゆかりの地・観世寺、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地浪江町、南相馬市、福島大学構内で撮影した。

映像作品完成記念上映会をいわき市、福島市で開催。平山素子氏・渡邊晃一氏・高明氏・赤坂憲雄実行委員会委員長によるトークセッションを合わせて行なった。

(オ) 精神の〈北〉へプロジェクト

アーティスト：丸山芳子  
 ゲストアーティスト：小野良昌、千葉奈穂子  
 主な活動場所：喜多方市、会津若松市、昭和村

• あなたにとって、精神の〈北〉とは【展示】

日時：2014年9月6日(土)～7日(日)  
 会場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）  
 入場料：無料

• あなたにとって、精神の〈北〉とは  
 【フリートーク】

日時：2014年9月6日(土) 16:30～18:30  
 会場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）  
 講師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子

• あなたにとって、精神の〈北〉とは  
 【トークセッション】

日時：2014年9月7日(日) 14:00～16:00  
 会場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）  
 講師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子  
 ゲスト：菅家博昭（専業農家）、長谷川浩（早稲谷大学主宰）、山中雄志（文学博士）

• シンポジウム 北の美と魂

日時：2015年2月1日(日) 13:00～15:30  
 会場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）  
 講師：山内宏泰（リアス・アーク美術館学芸係長）、山内明美（大正大学特命准教授）  
 趣旨

喜多方市を中心に会津地方のメンバーで構成される精神の〈北〉へ実行委員会との共働、連携で実施。2014年度は、小野良昌(写真家)・千葉奈穂子(美術家)・丸山芳子(美術家)各氏が昭和村・喜多方市山都で同地を拠点に活動する農業研究者・地域史研究者の長谷川浩氏・山中雄志氏・菅家博昭氏と地域のリサーチを行なった。その成果をアーティストと研究者の対話形式のトークセッションで報告し、一般に公開した。また、東北の精神性、歴史を考えるシンポジウム「北の美と魂」を開催、気仙沼リアス・アーク美術館学芸係長の山内宏泰氏、大正大学特命准教授の山内明美氏をお招きし、実行委員会委員他一般参加者が参加して対話を行った。

(カ) 飯館村の歴史・暮らし記録プロジェクト

主な活動場所：福島市、飯館村

• いいたてミュージアム巡回展東京

会期：2014年12月10日(水)～12月17日(水)  
 ※14日(日)休  
 会場：法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎1

階メディアラウンジ（千代田区）

入場料：無料

主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、法政大学国際文化学部

• いいたてミュージアム巡回展神戸

会期：2015年1月10日(土)～1月15日(木)  
 ※13日(火)休

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO（神戸市）

入場料：無料

主催：いいたてまでの会、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

• いいたてミュージアム巡回展京都

会期：2015年1月24日(土)～1月28日(水)

会場：京都造形芸術大学瓜生館1F（京都市）  
 入場料：無料

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、いいたてまでの会  
 協力：京都造形芸術大学文明哲学研究所  
 趣旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放射能汚染により全村避難となった飯館村。住民が土地を離れなければならない現状において、地域の歴史・文化をどのように記録、継承するか。時間の経過とともに困難になるその課題への解決策として、本プロジェクトでは飯館村への支援活動を続けているいいたてまでの会と連携しながら村民への聞き書きと資料収集を行った。今年度は、活動成果を、いいたてまでの会、開催地各団体の共働により「いいたてミュージアム巡回展」として東京の法政大学（主催：法政大学国際文化学部、いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト）、神戸のデザイン・クリエイティブセンター神戸KIITO（主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会）、京都の京都造形芸術大学瓜生館（主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、協力：京都造形芸術大学文明哲学研究所）で展示した。東京、神戸では飯館村民による飯館村の現状を伝える講演会も開催した。

(キ) 福島祝いの膳プロジェクト

アーティスト：中山晴奈

主な活動場所：南相馬市、いわき市、伊達市、福島市、西会津町、喜多方市など

## 第2回グランド・ラウンドテーブル第3部福島祝い膳

基調講演「福島祝い膳」＋福島祝いの膳プロジェクト展示解説

日 時：2015年2月14日(土) 17:30～18:15  
会 場：大和川酒蔵北方風土館(喜多方市)

祝いの席のために用意される食文化には、各地域の人々の願い、裏返せば地域の課題が内包されている。郷土料理、特産品のPRとは異なる、食を通しての地域文化の掘り起こしをフードデザイナーの中山晴奈氏と諸団体、研究者、博物館との共働で進めている。広い福島県全域の調査にはなお時間が必要だが、2014年度はいわき市・南相馬市・福島市・伊達市・喜多方市・西会津町でリサーチを行なった。海産物、神社に奉納する酒粕料理、薬用植物、流通に乗らない地野菜、山菜の保存方法、麩などの保存食、柿や豆の加工品等を調査した。リサーチ結果は、親しみやすい新聞サイズの印刷物にまとめ、各地で集めた食材を第2回グランド・ラウンドテーブルの際に展示し、成果報告会を行なった。総括として開催した南相馬フォーラム「南相馬からの福島発信」は、長時間の連続講演とセッションであったが各プロジェクト担当者と一般参加者が交流する機会ともなり、フロアセッションでは南相馬市長はじめ約40名が参加して活発な対話が行なわれた。南相馬市での本事業の広報に大きな効果があった。

## (ク) 夢のカプロジェクト

## ● 豊間ことばの学校

ゲストアーティスト：吉田重信、新井英夫、千葉清藍、玉井夕海

会 場：いわき市立豊間小学校

## ● 虹をつくろう、虹を描いて名前をつけよう

日 時：6月6日(木) 14:30～16:00

講 師：吉田重信

## ● ●●を体で表現しよう

日 時：6月13日(木)、6月20日(木)

14:30～16:00

講 師：新井英夫

## ● 心の一文字

日 時：6月27日(木)、10月24日(木)

14:30～16:00

講 師：千葉清藍

## ● 自分のテーマソングを作ろう

日 時：9月26日(木)、10月10日(木)、

10月31日(木) 14:30～16:00

講 師：玉井夕海

趣 旨

豊間地区は、東日本大震災の津波被害が甚大

で、東京電力福島第一原子力発電所事故による影響も受けた。過酷な経験を記憶に抱えながら暮らす生徒たちの心の成長を促し、表現力と創造力を身につけるために、生徒たちの「ことば」での表現力、他者の「ことば」を理解し、共有する能力を向上させてほしいという豊間小学校の教員、PTAの要望から「豊間ことばの学校」はスタートした。4人の表現者を講師に迎えた全8回のワークショップ形式の授業では、1年生から6年生までの幅広い学年の参加生徒たちが、「ことば」を創造する楽しみを共有・実感した。

## ● 好間土曜学校—アートな自然—

アーティスト：吉田重信

ゲストアーティスト：なにわホネホネ団、佐藤香、君平、城戸みゆき、小田隆

主な活動場所：いわき市

## ● ぐるぐるアンモナイト

日 時：9月13日(土) 9:30～11:30

講 師：なにわホネホネ団

## ● 光の鳥ワークショップ

日 時：10月4日(土) 9:30～11:30

講 師：吉田重信

## ● どんこアート～土ってどんな色？～

日 時：11月1日(土) 9:30～12:30

講 師：佐藤香

## ● 小さな命を観察して、樹脂粘土でつくろう

日 時：12月26日(金) 9:30～12:30

講 師：君平

## ● 森をみつけにいこう

日 時：2015年1月17日(土) 9:30～12:30

講 師：城戸みゆき

## ● 恐竜の頭の骨の絵から生きてる姿を考えよう

日 時：2015年2月7日(土) 9:30～12:30

講 師：小田隆

趣 旨

いわき市立好間第一小学校で行った「好間土曜学校」は、参加生徒に「自然の素晴らしさ」「生命の尊さ」を体感してもらうことを目的に開催。2014年9月から2015年2月まで、毎月1回土曜日に自由参加、体験型の学校という位置づけで実施した。講師を依頼した5名1組の美術家は、それぞれの表現手法によって、いわきの土の色、微生物の形、森の造形、恐竜の骨格などをテーマに造形ワークショップを行なった。

## ● ARDA南相馬ワークショッププロジェクト

企画運営・実施：認定NPO 芸術資源開発機構(ARDA)

主な活動場所：南相馬市

ワークショップ ろくぶて一族の冒険

日 時：10月20日(月)、10月21日(火)

9：40～11：00

10月22日(水) 9：10～10：30

会 場：南相馬市立大甕幼稚園

趣 旨

東日本大震災直後から、アートワークショップを通して被災地の支援を行っているARDA。震災後数年間を経て、福島県の子どもたちが抱える心の問題に取り組むべく南相馬市の幼稚園でのワークショップを実施。子どもたちの表現力を育み、福島が抱える課題に向き合うことを企図した。

#### ・福島てわざ復興プロジェクト

主な活動場所：喜多方市

趣 旨

東日本大震災後、避難者の新しいコミュニケーションの構築がものづくりを通して試みられている。本プロジェクトではてわざ復興から将来像を描けるようなトークイベントの開催を企画。第2回グランド・ラウンドテーブルのテーマのひとつに「ものづくり」を掲げて実施した。

(ケ) はま・なか・あいづ

グランド・ラウンドテーブル

#### ・第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」

日 時：12月27日(土) 13：30～19：00

12月28日(日) 10：00～15：30

会 場：大和川酒蔵北方風土館(喜多方市)

講 師：平田オリザ(劇作家・演出家)、相馬千秋(アートプロデューサー)、いしいみちこ(ドラマティーチャー)、小沢剛(アーティスト)、やなぎみわ(アーティスト)、小畑瓊子(朝日座を楽しむ会代表)、三澤真也(大宴会in南会津実行委員会委員)、島崎圭介(NPO法人Wunder ground代表)、佐藤雅通(福島県立大沼高校演劇部顧問)、篠田直子(喜多方発21世紀シアター実行委員会事務局長)

モデレーター：赤坂憲雄

#### ・第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」

日 時：2015年2月14日(土) 13：30～19：15

2月15日(日) 10：00～15：00

会 場：大和川酒蔵北方風土館(喜多方市)

講 師：鞍田崇(哲学者)、中山晴奈(フードアーティスト)、舟木由貴子・渡辺悦子(渡し舟主宰)、菅家藤一(間方生活工芸技術保存会会長)、庄司ヤウ子(會空代表)、遠藤由美子(会津自然エネルギー機構理事)、木村正晃(野菜ソムリエ・料理研究家)、長谷川浩(早稲谷大

学主宰・福島大学うつくしま未来支援センター特別研究員)、佐々木長生(福島県立博物館専門員)、モデレーター：赤坂憲雄

趣 旨

グランド・ラウンドテーブルは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014の事業報告、発信、そして福島県内で震災後に行われている文化活動の情報共有を目的に開催。

第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」では、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの新たな領域に演劇を据え、近年福島において展開されてきた多様な活動を共有し、その成果を振り返るとともに、未来に向けた対話の場を設けた。基調講演者・モデレーターに平田オリザ氏・相馬千秋氏を迎え、総合司会を赤坂憲雄実行委員長が勤めた。報告者はアーティスト小沢剛氏・やなぎみわ氏の他、福島県内でさまざまな演劇に関する活動に携わっている6名を加え計11名。ほぼ満員の会場で二日間、4部11時間に及ぶ対話が行なわれた。

2013年度に実施した「福島てわざ復興プロジェクト」では、被災者の心の復興、社会参加にものづくりが有効であることが確認された。本年度は「ものづくり」の「もの」の幅を工芸から食さらにエネルギーまで拡張し、さらに「ものづくり」に関わる歴史・精神史に触れる機会として第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」を開催した。同時に「福島祝い膳」の再現展示・展示解説を行なった。明治大学教授鞍田崇氏・フードアーティスト中山晴奈氏を基調講演講師に、その他福島県内外で行なわれているさまざまなものづくりの実践者・研究者を報告者に招き、二日間6部11時間にわたる自由な対話を通して福島における新たな「ものづくり」を考える場となった。

#### (その他) 記録集

『はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014記録集』は、多岐にわたる本事業の内容が一目で見渡せる体裁で、本事業への協力者、参加者の理解が深まった。また今後の展開にあたって個人・団体に理解・協力を求める際に有効な説明資料となる。

## 8. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている

### (1) 磐梯山ジオパーク推進事業

#### ア. 事業の趣旨

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、2004年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立。2014年4月現在、ヨーロッパと中国を中心に30ヶ国100地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標としている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では2015年3月現在36地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち6地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。当館も協議会に加入し、この運動に積極的に取り組んでいる。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。

#### イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、及び民間団体として文化施設およびツーリズム協会が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

#### 磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
学識経験者	福島県立博物館ほか
行政団体	福島県企画調整部企画調整課
	福島県会津地方振興局
	猪苗代町
	磐梯町
商工団体	北塩原村
	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
観光協会	北塩原村商工会
	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
民間団体	裏磐梯観光協会
	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
	国立磐梯青少年交流の家
磐梯やま楽校	
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
	福島県喜多方建設事務所

#### ウ. 活動

平成26年度は次の事業を実施した。

##### 1. 大会・学会参加

日本ジオパーク全国大会（南アルプス）など11件

##### 2. 調査活動

###### (1) 地質・自然保護活動

磐梯山ジオパークの地形・地質等保全計画（環境省委託事業）の整備（継続事業）

###### (2) 住民意識調査

磐梯山ジオパーク住民アンケート調査実施

##### 3. 啓発活動

###### (1) フォーラム・シンポジウム

第5回ジオパークフォーラム in 猪苗代 1件

###### (2) 専門家を招聘した講演会

宇都宮大学中村洋一氏など7件

###### (3) ジオツアー

地質の日ジオツアーなど4件

###### (4) 出前講座



大人のジオパーク教室など23件

(5) 出前授業

猪苗代町立吾妻小学校など19件

4. 広報活動

(1) イベント参画

磐梯山山開きなど23件

(2) 広報誌発行

猪苗代町「ジオパーク通信 ジオパークしてる？」1～4号発行

(3) ジオグルメ

岩なだれカレー試食会 於道の駅磐梯

(4) 取材・記事・放映

テレビュー福島「スイッチ」など6件

5. ガイド養成

(1) ガイド研修

英語でジオツアー研修など5件

6. ツアー解説媒体制作

(1) ジオサイト解説看板設置

道の駅磐梯など5基設置

(2) ジオパークガイドブック

エリアガイドブック1冊、同英語版2冊、マップパンフレット1冊制作

(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、2008年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々な科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、2011.3.11の震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに2010年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧

(平成27年3月現在)

所属機関
福島大学
福島県商工労働部
ふくしま森の科学体験センター (ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館 (スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株)福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECネットワークプロダクツ株式会社
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有)西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株)坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有)アビスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村



水利用ジオツアー 猪苗代町長坂にて



ガイド英語研修 猪苗代町土津神社奥の院にて

平成26年度にspff が中心となり実施した活動は表のとおりである。このうち、「spff サイエンス屋台村 in 須賀川」は福島県立博物館も参加した。このほか、spff を窓口とした県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。これらの事業は、公益財団法人福島県学術教育振

興財団による助成「科学コミュニケーション事業を通じた「リケジョ」育成支援事業」および福島県緊急雇用創出基金事業による助成「科学コミュニケーション活動における人材育成事業」をもとに実施した。

#### 平成26年度ふくしまサイエンスぷらっとフォーム実施主要事業

No.	名 称	期 日	会 場	参加者数
1	君は火山を見たことがあるか？	4月 6日	ムシテックワールド	47
2	サイエンスフェスティバル2014	5月 3日～ 6日 7月19日～21日 8月13日～17日	郡山市ふれあい科学館	7,656
3	喜多方市ものづくり交流フェア	7月 6日	喜多方市プラザ文化センター	520
4	いまの火山、磐梯山とむかしの火山、霊山	7月13日	霊山こどもの村	48
5	子どもアグリ科学教室	7月24日、31日 8月 7日	福島県農業総合センター	113
6	ご当地サイエンス	7月27日、30日	福島市 子どもの夢を育む施設こむこむ	154
7	教員のための博物館の日 貸出教材研修会	8月18日	ムシテックワールド	23
8	農業総合センターまつり	9月12日～13日	福島県農業総合センター	2,500
9	ムシテックワールド誕生祭	10月25日～26日	ムシテックワールド	1,420
10	サイエンスアゴラ2014	11月 8日	日本科学未来館	200
11	spff サイエンス屋台村in須賀川	11月23日	ムシテックワールド	900
12	そうそう子ども科学祭2014	12月 6日	福島県立テクノアカデミー浜	800
13	おもしろ科学びっくり箱 「親子で挑戦！本当にもどってくる？ブーメランを作ろう」	1月25日	郡山市ふれあい科学館	42



サイエンス屋台村 in 須賀川  
「化石を取り出そう！」 1



サイエンス屋台村 in 須賀川  
「化石を取り出そう！」 2

### (3) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みである。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の4つの事業を実施した。

- ア. 検討会議 検討会議を3回開催し、事業計画及び成果と課題について検討を加えた。
- イ. 普及事業 本プロジェクトの趣旨と活動の紹介に加え、震災遺産への関心喚起を目的に、県内3会場（南相馬市博物館・福島県立博物館・いわき市田人地区）にて震災遺産展示会・報告会・講演会・見学会を開催した。
- ウ. 調査事業 福島県浜通り地域を中心とする8自治体で震災遺産の所在調査を行った。資料の来歴を確認し、資料の背景や意味合いを理解するための聞き取り調査も当事者の協力を得て行った。調査記録はカード化し、併せてリストとマップを作成した。また事業の参考とするため、先進事例として三陸地方と中越地方の震災遺産保全の取り組みについて調査を実施した。
- エ. 資料の収集・整理事業 放射線量を計測し基準値以下の値を示した震災遺産（約100点）を収集し、搬送後に燻蒸も実施した。震災遺構については東北大学と連携し3D計測を実施した。また富岡町所在の津波被災パトカーは町民と共に現地保全に取り組んだ。

事業の成果について以下にまとめる。

- (ア) 実行委員会を広域的かつ多様な立場の人員で構成したことで、多視点の考え方や情報の共有が図られ、被災地域ごとの事情に応じた交渉や対応を進めることができた。単独館では、急速に復興事業が進展状況下での事業展開は難しく、本事業は連携組織を設置し広域的な課題に取り組む新たな機

能を博物館に備える一つのモデルケースと位置付けられる。

- (イ) 普及事業には3会場で延べ450人程の参加者があり、関心の高さが窺われる。宮城県や東京都からの参加もあった。未だ震災の爪痕が多く残る段階で普及事業を開催することに、どんな反応があるのか不安もあったが、アンケートでの集計や会場での感想を聞くと、「悲しみ」の記憶が再生されたとの声と同時に、事業については意義深いとの回答が多くあり、本事業について一定の理解を得ることができたものと受け止めている。また南相馬市の避難所が開設された新潟県長岡市から講師を招聘して講演会を行い、同時に資料を借受けて展示したことで、震災遺産の多様性（被災地だけに資料があるのではない）を示したことも意義がある。なお普及事業を契機に今後長岡市と南相馬市の交流事業が具体化する動きがあり、これも事業の成果と言える。活断層に関する講座もいわき市および地域の振興協議会と連携し、「負の遺産」を地域の財産として位置づけ活用していくための一歩となった。
- (ウ) 調査は本事業の基幹をなしている。今回の調査手法で効果的だったのは聞き取り調査である。全町避難による住民不在という制限があるため件数は多くないが、震災遺産の歴史資料としての位置付けや掘り下げ、予断による資料理解の回避に有効である。例えば、浪江町の新聞販売店では店舗の沿革や日常業務の内容を聞き取り、その後震災当日の状況、そして避難から現在に至る経緯について記録した。これにより震災が物理的に物を破壊するのみでなく、日常生活（仕事や学校生活など）と言った無形の、繰り返される日々の暮らしを断絶させたことを浮き彫りにすることができた。また聞き取りを行うことで意義を見出し新たに収集するに至った資料も存在する。
- (エ) 先進地視察では、震災遺産の保全の手法や震災を伝える各施設の状況を調査したが、すでに述べたように広域的な組織で取り組んでいる事例が少なく、本プロジェクトの取り組みの特性が明確になった。なお長岡市の震災遺産の取組を調査したことが、先の普及事業の開催に繋がっている。
- (オ) 県内では、いわゆる震災遺構の保存についての議論が他県と比べ低調である。おそらくそれは全町避難などによる住民不在も

一つの要因と考えられる。その一方で復旧・復興事業による震災痕跡の消失が進み、震災遺構についても多く失われる状況にある。こうした現状に対しいわゆる記録保存の措置として、三次元レーザー測量や全天球撮影機での記録保存を新たな取り組みとして実施した。前者については6施設で計測を実施した。レーザー計測事業を紹介した自治体の中には、事業の意義を認め、独自に被災建造物の計測事業の準備を進めている所もある。全天球撮影動画は富岡町のFacebookに一部提供し、多くの閲覧実績がある。デジタルツールの情報発信の効果を示している。

(カ) 今年度保全した震災遺産の中で、富岡町の津波被災パトカー保全は、町民有志・関係機関と本プロジェクトの意志が一致し取り組んだものになる。パトカーの除砂・洗浄・防錆剤の塗布等、作業は困難を極めた

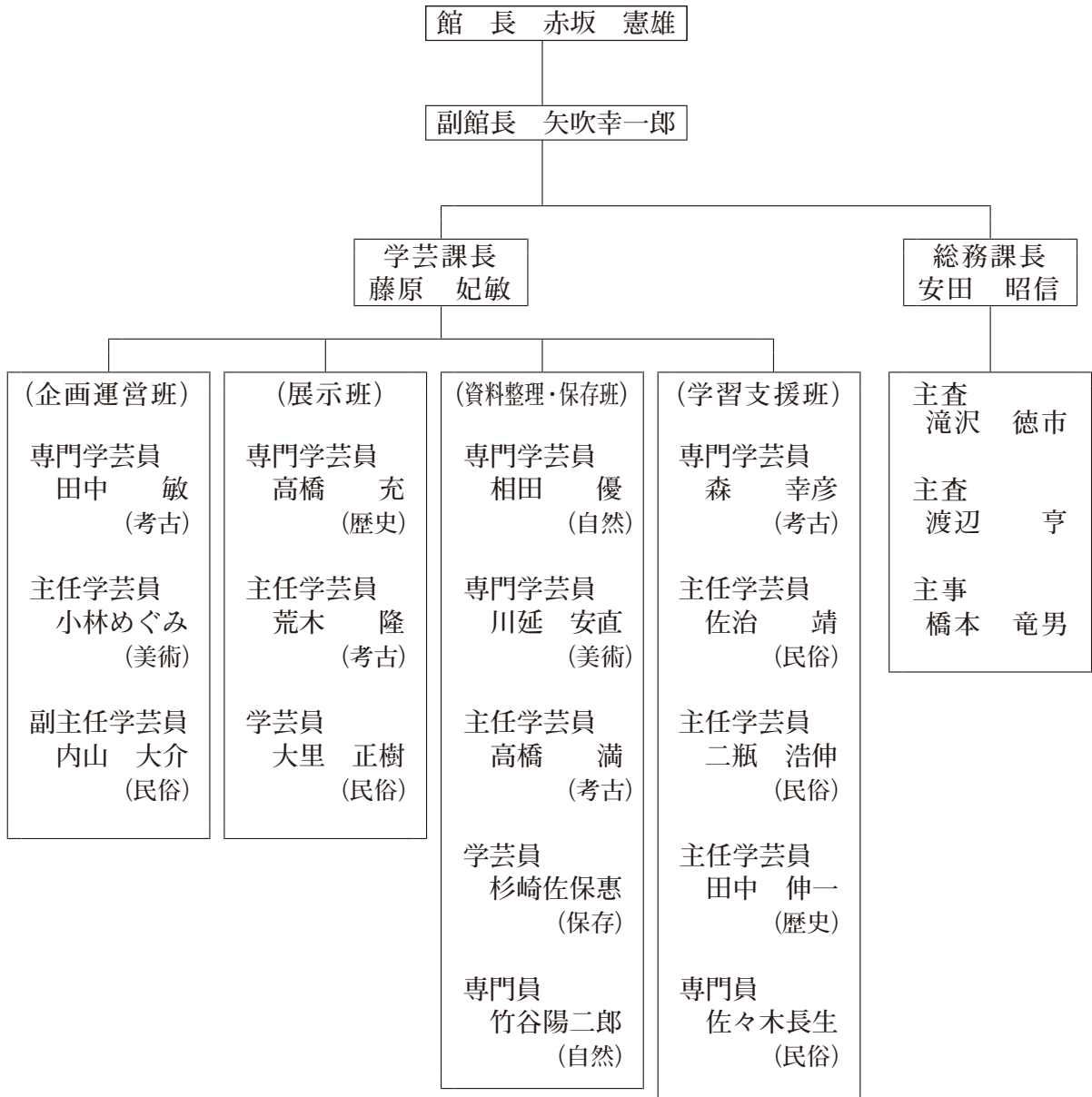
が、震災を未来に伝えるという強い意志の元、多様な階層の方々と共同して作業を行ったこと自体も将来に伝えるべき事例と言えよう。

(キ) 「震災遺産」という言葉はまだ新しく、用語としては「震災遺構」が一般的であり、普及しているのが実際である。本プロジェクトでは不動産的な「遺構」と動産的な「資料(遺物)」も震災を伝えるツールとしては同等・同格のものとし、これらを包括する概念として「震災遺産」を使用している。年度の後半から、プロジェクトの活動が報道機関に取り上げられることが多くなっていく中で、初めは「遺構」と「遺物」を明確に区別できていない報道もあったが、次第に「震災遺産」を用いる例が多くなり、活動の理解と認知が浸透してきたことの現れと理解している。

## II 管理運営

### 1. 組織・職員

(平成26年4月1日現在)



(定数外)

- 展示解説員 (嘱託) 13名
- 資料整理員 (嘱託) 2名

#### 嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	小池 美奈	展示解説員	椎野 未帆
	後藤 詩織		綱 真奈美
	穴澤 由美子		富田 陽介
	長谷川 亜樹		柳 沼美咲
	佐々木 杏純	吉村 江理佳	
	前田 知香	資料整理員	竹内 咲
	岩崎 萌		相原 綾子
	後藤 知春		

(広報班)
専門学芸員 佐藤 洋一 (歴史)
主任学芸員 船尾 武彦 (自然)
主任学芸員 金澤 文利 (美術)
主任学芸員 阿部 綾子 (歴史)

## 2. 予 算

平成26年度は下記の通り予算を執行した。

### 平成26年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				12,034
	使 用 料			12,034
		行政財産使用料		387
			建 物 使 用 料	387
		教 育 使 用 料		11,647
			博 物 館 使 用 料	11,647
財 産 収 入				1,216
	財 産 売 払 収 入			1,216
		物 品 売 払 収 入		1,216
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	1,216
諸 収 入				569
	雑 入			569
		雑 入		569
			雑 入	569
		合 計		13,819

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
労 働 費				3,727
	雇 用 対 策 費			3,727
		緊 急 雇 用 対 策 費		3,727
			共 済 費	487
			賃 金	2,920
			需 用 費	320
教 育 費				156,718
	教 育 総 務 費			3,409
		事 務 局 費		3,409
			報 酬	2,400
			職 員 手 当	500
			共 済 費	70
			賃 金	439
		財 務 管 理 費		0
			交 際 費	0
	社 会 教 育 費			153,309
		社 会 教 育 総 務 費		7,849
			報 償 費	0
			旅 費	82
			需 用 費	556
			需 用 費 ( 食 糧 費 )	0
			役 務 費	229
			委 託 料	982
			使 用 料 及 び 賃 借 料	0
			負 担 金、補 助 及 び 交 付 金	6,000
		文 化 財 保 護 費		76
			使 用 料 及 び 賃 借 料	76

科 目 (款・項・目・節)			金 額
	博 物 館 費		145,384
		報 酬	24,284
		共 済 費	3,697
		報 償 費	474
		旅 費	2,167
		需 用 費	51,555
		需 用 費 ( 食 糧 費 )	0
		役 務 費	2,652
		委 託 料	58,574
		使 用 料 及 び 賃 借 料	1,019
		備 品 購 入 費	850
		負担金、補助及び交付金	56
		公 課 費	56
合 計			160,445

博物館費内訳 (単位：千円)

運営費	102,620
資料収集費	833
保存管理費	4,105
常設展費	25,707
企画展費	6,304
調査研究費	3,059
教育普及費	2,756

### 3. 運営協議会の開催

#### (1) 福島県立博物館運営協議会

##### ア. 委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。うち1名は公募委員となっている。

##### 福島県立博物館運営協議会委員名簿

区分	氏 名	役 職 名
学校教育	中野みどり	郡山市立喜久田小学校長
	遠藤 晴美	いわき市立三阪中学校長
	山内 正之	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	会長 遠藤 俊博	(公財)福島県文化振興事業団理事長
	佐藤 典子	いわき市立中央公民館 庶務係長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	公立大学法人会津大学短期大学部 社会福祉学科 非常勤講師
	白井美津子	会津若松市教育委員会委員
	新妻 玲子	家庭教育インストラクター いわきの会
	庄司 梓	公募委員

#### イ. 会 議

第1回 平成26年6月6日(金)

##### 議 題

- ①会長および副会長の選出について
- ②平成26年度の事業について
- ③中期目標の達成状況について
- ④入館状況について

第2回 平成27年2月27日(金)

##### 議 題

- ①平成26年度事業の実施状況について
- ②平成27年度事業計画について
- ③平成27年度予算案の概要について

# Ⅲ 利用状況

## 1. 入館者統計

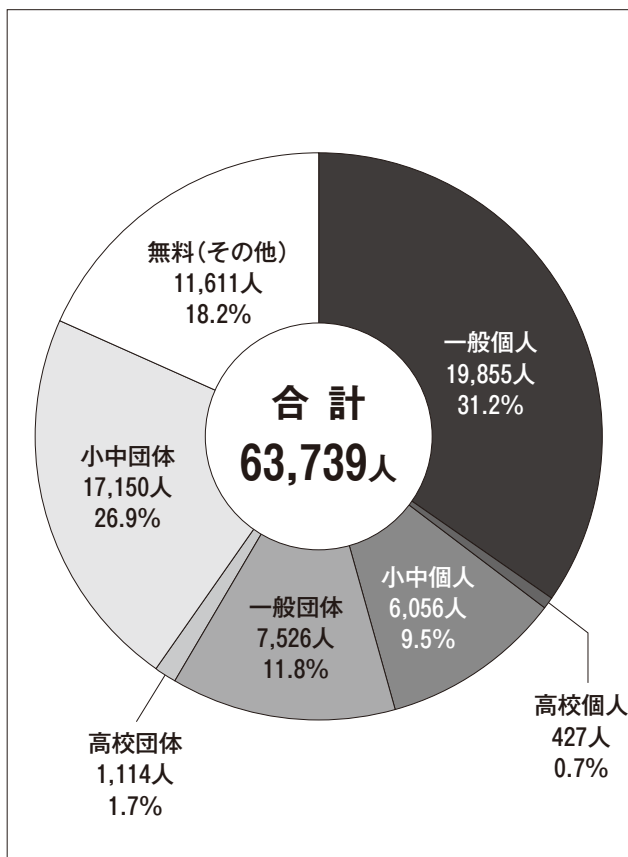
### (1) 平成26年度入館者統計

月別入館者数

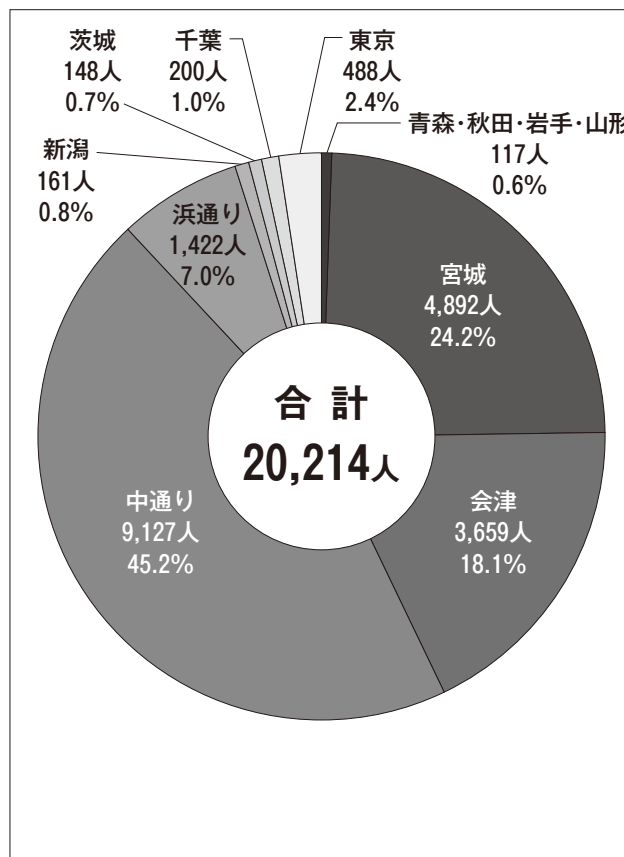
月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料	無料		日数	有料	無料	日数	人数	
		人数	小中高校生 人数	その他 人数		人数	人数			
4	26	1,277	2,396	682	10	477	140	26	4,972	7.8%
5	27	1,727	3,923	755	16	749	220	27	7,374	11.5%
6	24	1,440	5,892	345				24	7,677	12.0%
7	27	1,299	1,521	599	11	676	155	27	4,250	6.7%
8	28	2,124	821	736	28	1,833	331	28	5,845	9.2%
9	25	1,279	4,518	519	13	925	216	25	7,457	11.6%
10	27	1,174	3,033	342				27	4,549	7.1%
11	26	1,734	592	1,229	26	4,458	865	26	8,878	13.9%
12	21	868	62	257	12	2,074	554	21	3,815	6.0%
1	23	382	481	173				23	1,036	1.6%
2	23	1,244	481	2,040				23	3,765	5.9%
3	26	1,225	206	2,690				26	4,121	6.5%
合計	303	15,773	23,926	10,367	116	11,192	2,481	303	63,739	100.0%

利用  
状況

入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数





(2) 入館者の推移

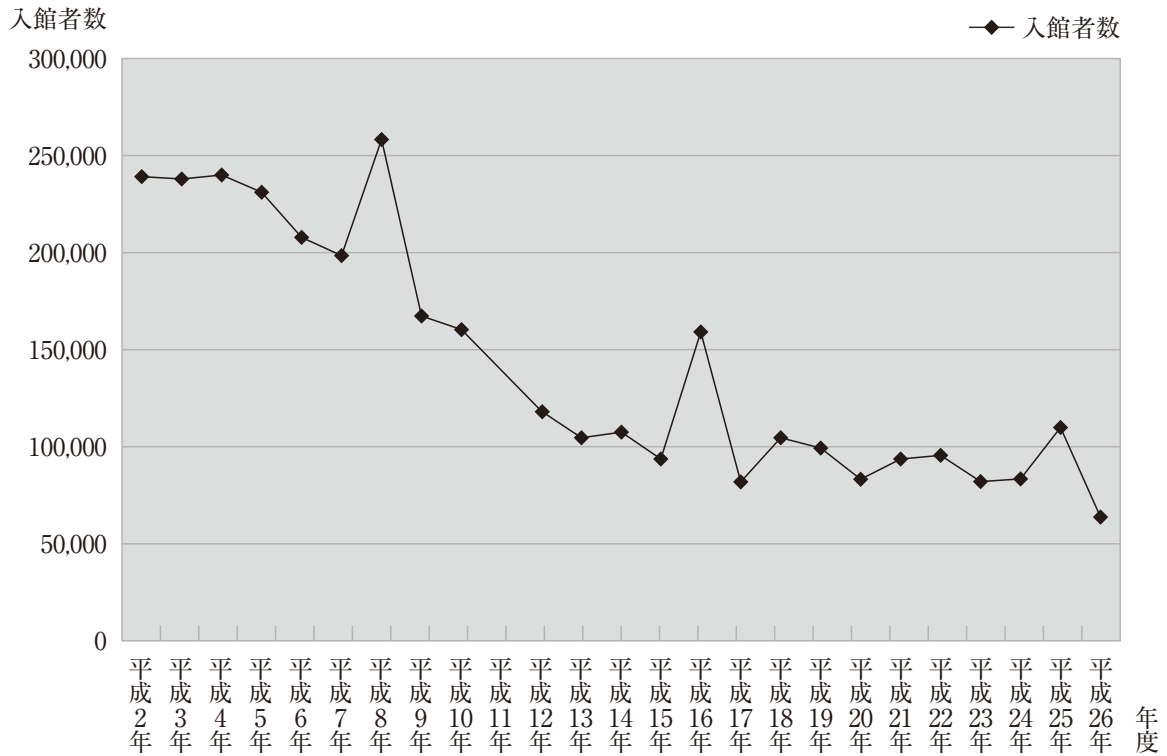
入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
平均	12,539	27,878	18,095	11,947	19,503	15,642	18,265	11,876	3,097	2,640	5,034	4,262	150,779				

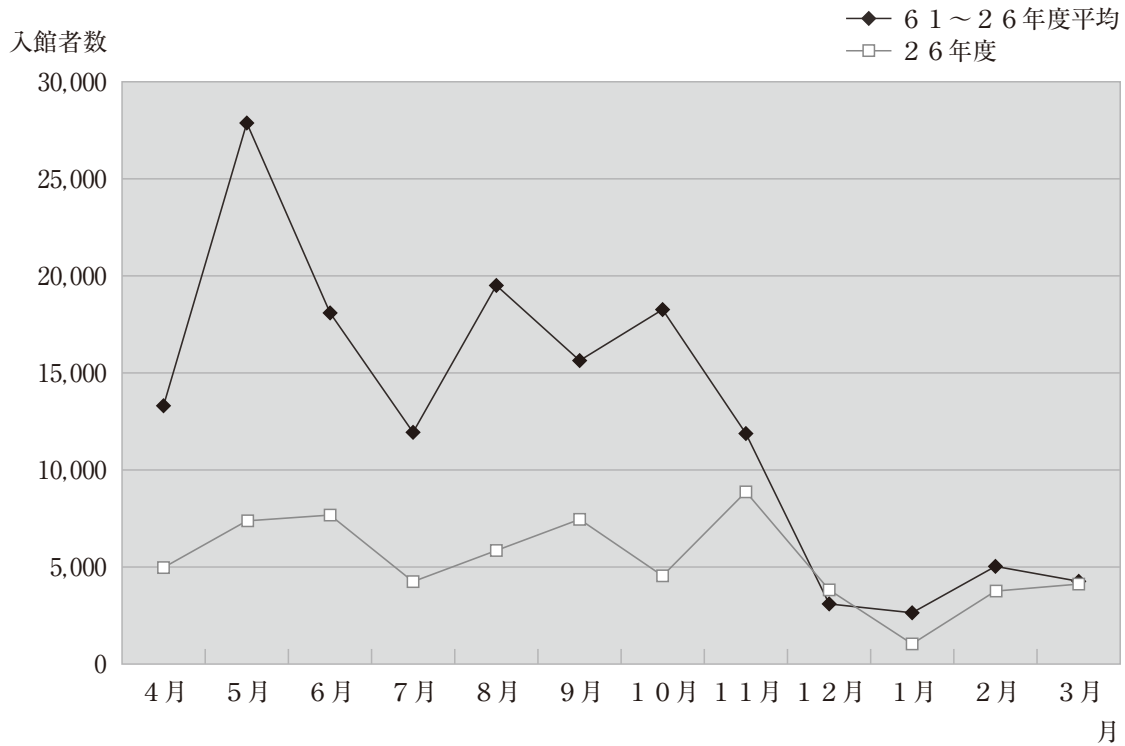
入館者数の推移グラフ（年度別月別）

入館者数の推移 年度別



利用状況

月別入館状況



### (3) 企画展入館者統計

#### 企画展入館者数

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武 家 の 文 化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福 島 の ま つ り	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福 島 の 顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植 物 化 石 展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会 津 の 仏 像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸 奥 の 古 瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境 の 神 ・ 風 の 神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江 戸 時 代 の 流 通 路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東 国 の 埴 輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱 物 の 世 界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄 文 の 四 季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町 の 成 立 と に ぎ わ い	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中 通 り の 仏 像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東 北 の 陶 磁 史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂 欧 堂 田 善 と そ の 系 譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太 古 の 生 き も の た ち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀 吉 ・ 氏 郷 ・ 政 宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日 本 の 音 色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シ ル ク ロ ー ド 紀 行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄 文 絵 巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜 通 り の 仏 像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふ く し ま 鉱 山 の あ ゆ み	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マ ン ガ 文 化 の 源 流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐 竜 の あ る い た 道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定 信 と 文 晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発 掘 ふ く し ま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明 治 は じ め て 物 語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲 と く ら し	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東 北 か ら の 弥 生 文 化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会 津 の 自 然 史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉 堂 と 春 琴 ・ 秋 琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げ ん き ・ 病 ・ 元 気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会 津 大 塚 山 古 墳 の 時 代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村 芝 居 の 世 界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
7	探 検 貝 化 石 ワ ー ル ド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海 の ま く あ け	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福 島 1 0 0 0 年 時 の か た ち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	い に し え の 木 の 匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福 島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44日	8,931人	976人	12,432人	22,339人
	地 震 ・ 火 山 ・ 津 波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀 吉 と 桃 山 文 化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近 代 子 ど も の 世 界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄 文 た ん け ん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日 本 の 魚 学 ・ 水 産 学 事 始 め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染 め る	9.10.10～ 9.12.7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠 澤 と 探 幽	10. 1.24～ 10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦 国 の 城	10. 4.18～ 10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発 掘 ふ く し ま 2	10. 7.18～ 10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天 の 絹 絲	10.10.10～ 10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日 本 の 美	11. 1.26～ 11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷 河 時 代	11. 4.17～ 11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新 弥 生 紀 行	11. 7.17～ 11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生 の 中 の 死	11.10. 9～ 11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊 かな る 世 界 へ	12. 1.22～ 12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集 古 十 種	12. 4.22～ 12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海 獣 パレオ パラドキシア	12. 7.15～ 12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英 雄 た ち の 系 譜	12.10. 7～ 12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安 積 良 斎 と 門 人 た ち	13. 1.20～ 13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食 と 考 古 学	13. 4.21～ 13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～ 13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～ 13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化 石 芸 術	14. 4.27～ 14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪 村 展	14. 8.10～ 14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

利  
用  
状  
況

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘 ふくしま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老 い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹 と 竹	19. 7.21～19. 9.17	52日	1,987人	44人	429人	619人	3,079人
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8～23.11.27	43	4,908	28	188	5,124	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	2,815	2,815
	計		79	7,431	49	459	7,939	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 5.17～25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	5,197	23,935
	対決！恐竜展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	3,733	18,987
	考古学からの挑戦	25.10. 5～25.12. 1	50	1,955	11	85	634	2,685
	計		142	25,049	414	10,580	9,564	45,607
26	東北－風土・人・暮らし	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

## 2. 出版物販売

利用状況

図録売り上げ表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	1	1											2	1,200
ふくしまの顔	500	1						1						2	1,000
陸奥の古瓦	400		1	2	2	1		1	3		1	1		12	4,800
鉱物の世界	400		2	1	1			2	1					7	2,800
縄文の四季	500		4			1		2	1		2	1		11	5,500
まちの成立とにぎわい	500			1	1				1	2		1		6	3,000
亜欧堂田善とその系譜	1,000		1											1	1,000
太古の生きものたち	500		1					2	2				1	6	3,000
日本の音色	800								1					1	800
シルクロード紀行	1,000			1				1						2	2,000
縄文絵巻	800	1	1	2	6	1	1	4	2		1	3	2	24	19,200
浜通りの仏像	500	2	1	1		1		1	16	5	1	1		29	14,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800			1				1				1		3	2,400
マンガ文化の源流	1,000							1						1	1,000
恐竜のあるいた道	500		1						1					2	1,000
定信と文晁	1,000		3					1			1			5	5,000
明治はじめて物語	500			2				2	1					5	2,500
稲とくらし	800				2	1				1			2	6	4,800
東北からの弥生文化	800		3					1			1	3		8	6,400
会津の自然史	800	1	1						3		1			6	4,800
玉堂と春琴・秋琴	1,100		1		1					1			1	4	4,400
げんき・病・元気	800							1				1		2	1,600
村芝居の世界	900					1				1	1		1	4	3,600
探検貝化石ワールド	800											1		1	800
海のまくあけ	800		1					2						3	2,400
福島1000年時のかたち	900								2			1		3	2,700
いにしえの木の匠	600					1		1				1	1	4	2,400
福島の山岳信仰	800	1	1	2					10	8	1	1	2	26	20,800
地震・火山・津波	500	1		1				1				1	1	5	2,500
近代子どもの世界	900													0	0
縄文たんけん	900			1	1	2		1			1		1	7	6,300
日本の魚学・水産学事始め	500										1			1	500
染める	600		1			1	1		2	4			3	12	7,200
遠澤と探幽	1,300	2								1	1	1		5	6,500
天の絹絲	1,300				1	1	1		1	2			2	8	10,400
日本の美	800		1	1							1			3	2,400
氷河時代	700								1					1	700
新弥生紀行	1,100			1		1		1	2					5	5,500
生の中の死	900	1		1				1	4	11		2	1	21	18,900
豊かなる世界へ	600		1	1						1				3	1,800
集古十種	1,100	4	1	2	3		1	1	3			1	1	17	18,700
海獣パレオパラドキシア	600		1						2	2	1	1		7	4,200

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
英雄たちの系譜	500	1	2				1							4	2,000
食と考古学	500				2	2		2	2			1	1	10	5,000
肖像に見る福島を築いた人々	900		1	2	1					1				5	4,500
武者たちが通る	400		2		1	2	6	1	2			1		15	6,000
発掘ふくしま3	600					1	1		1		1	3	1	8	4,800
笑いの想像力	1,000				1		1				1		1	4	4,000
老い	2,000		1		1									2	4,000
婚禮	1,500					1				1	1			3	4,500
馬と人との年代記	1,600						3	1	1					5	8,000
布の声をきく	1,300				2	2		2	7	2			2	17	22,100
徳川將軍家と会津松平家	1,200	4	8	3	3	6	4			1		1	2	32	38,400
樹と竹	1,200				1	7	6	2	3	2	1		4	26	31,200
わくわく！化石大集合	800				1			1	1		1			4	3,200
会津磐梯山	1,000		5	3	3	2		1	2	1			1	18	18,000
遠藤香村	1,500	1					1	1		2	3	1		9	13,500
岡本太郎の博物館	1,000	1	1				1			1	1		1	6	6,000
千少庵と蒲生氏郷	500	1	3	2	3	1	4	1	3	1			3	22	11,000
漆のチカラ	800		1			1	2			2			1	7	5,600
保科正之の時代	1,000	2	2	4	1	6	3	1	1	3		2	5	30	30,000
小さなもの集まれ	500	6	8	1	3	1	1							20	10,000
恐竜時代のふくしま	500	2		4	3		1	2	6	1	1	1	1	22	11,000
会津の寺宝	1,000	4	2	1	2		5	3	33	21		3		74	74,000
八重の桜	2,000	6	4	5	1	3	1	2					2	24	48,000
対決！恐竜展ガイドブック	300	2			2		2		1	1	1	1	1	11	3,300
恐竜博2011ポラディア完全ガイド	500						1		1	1				3	1,500
恐竜博2011公式図録	2,000			1	1									2	4,000
考古学からの挑戦	900	4	4	5	5	8	8	7				7	3	51	45,900
アイヌの工芸	1,000				48	86	64		6	1		1	1	207	207,000
紀要(数量)		10	11	5	7	3	5	14	12	5		5	11	88	
紀要(金額)		11,100	13,400	4,400	7,800	2,400	6,500	12,800	11,300	4,900		5,800	10,200	90,600	90,600
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	1	1	1	2	1		1	20	9				36	46,800
福島の古墳	1,200		5		2	4	2	3	6	2	1	4	4	33	39,600
福島の化石	1,500							1	1	2				4	6,000
戦時下の福島	800		3	3	1	2	2		3	1				15	12,000
福島の年中行事	1,100									1		2	1	4	4,400
ガイドブック	300	12	8	2	2	9	12	7	10	5	3	2	2	74	22,200
手引き(小)	700						1		1					2	1,400
常世原田遺跡	600									1				1	600
ふくしまの農具	1,000			1	1			1				2	1	6	6,000
報告書(数量)		2	7	4	14	9	11	6	28	12	3	8	4	108	0
報告書(金額)		3,000	9,500	3,400	11,600	12,100	9,100	5,900	34,000	14,000	3,100	6,400	3,300	115,400	115,400
絵葉書	50	6	6	26	10	19	34	30	22	4		5		162	8,100
クリアホルダー	200	6	4	8	5	2	9		11	4		3	11	63	12,600
勾玉セット	200	19											20	39	7,800
体験学習材料費	500							4						4	2,000
パソコン売払代金	2,592												1	1	2,592
合計		105	117	102	147	190	206	115	243	125	33	75	104	1,562	1,215,592

# IV 法 規

## 福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則 この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日条例第52号) この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年12月24日条例第93号) この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第53号) この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成25年条例第119号) この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特別観覧料の額
	個 人	団 体	
一般(大学生を含む。)	270円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無 料	無 料	その都度知事が定める額



備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

**福島県立博物館運営協議会条例**

(昭和61年3月25日 条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

**福島県立博物館条例施行規則**

(昭和61年3月25日教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。
- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 3 1月1日から同月4日まで
- 4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。  
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
  - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ）  福 島 県 立 博 物 館	観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ）  福 島 県 立 博 物 館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地  
氏名又は名称及  
び代表者の氏名  
申請者

年 月 日

印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ( )			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号

年 月 日

様

福島県立博物館長

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地  
氏名又は名称及  
び代表者の氏名  
申請者

年 月 日

印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人	数
				金
				額
				円
	合計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ( )			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

# 福島県立博物館組織規則

(昭和61年 3月25日 教育委員会規則第 6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則(平成6年3月15日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則(平成13年3月27日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

## 福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

## 福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

（1）展示計画原案の作成

（2）展示計画作成のための基礎的資料の収集

（3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

## 福島県立博物館資料所在調査要領

### 1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

### 2) 調査の実施

#### （1）調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

#### （2）調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

## 福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

## 福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
- ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
- ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
- ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。

2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。

3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

会	長	1名
副	会 長	若干名
幹	事	若干名
監	事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員の出選及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)

# V 施設の概要

## 1. 建築概要

<b>設計者</b>	(株)佐藤武夫設計事務所
<b>工事監理</b>	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
<b>施工者</b>	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)
<b>共同企業体</b>	電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備) 工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株) 共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他 設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設 備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)
<b>面積</b>	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡
<b>建築事業費</b>	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
<b>規模</b>	地上2階
<b>最高の高さ</b>	20.6m
<b>最高の軒高</b>	13.6m
<b>地域地区</b>	住居地域 風致地区第1種

<b>構造</b>	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一 部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
<b>外部仕上げ</b>	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト コンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
<b>内部仕上げ</b>	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40㎜ 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12㎜ 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12㎜ 壁 杉板厚12㎜ ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12㎜ 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12㎜ 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
<b>工期</b>	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

施設の概要

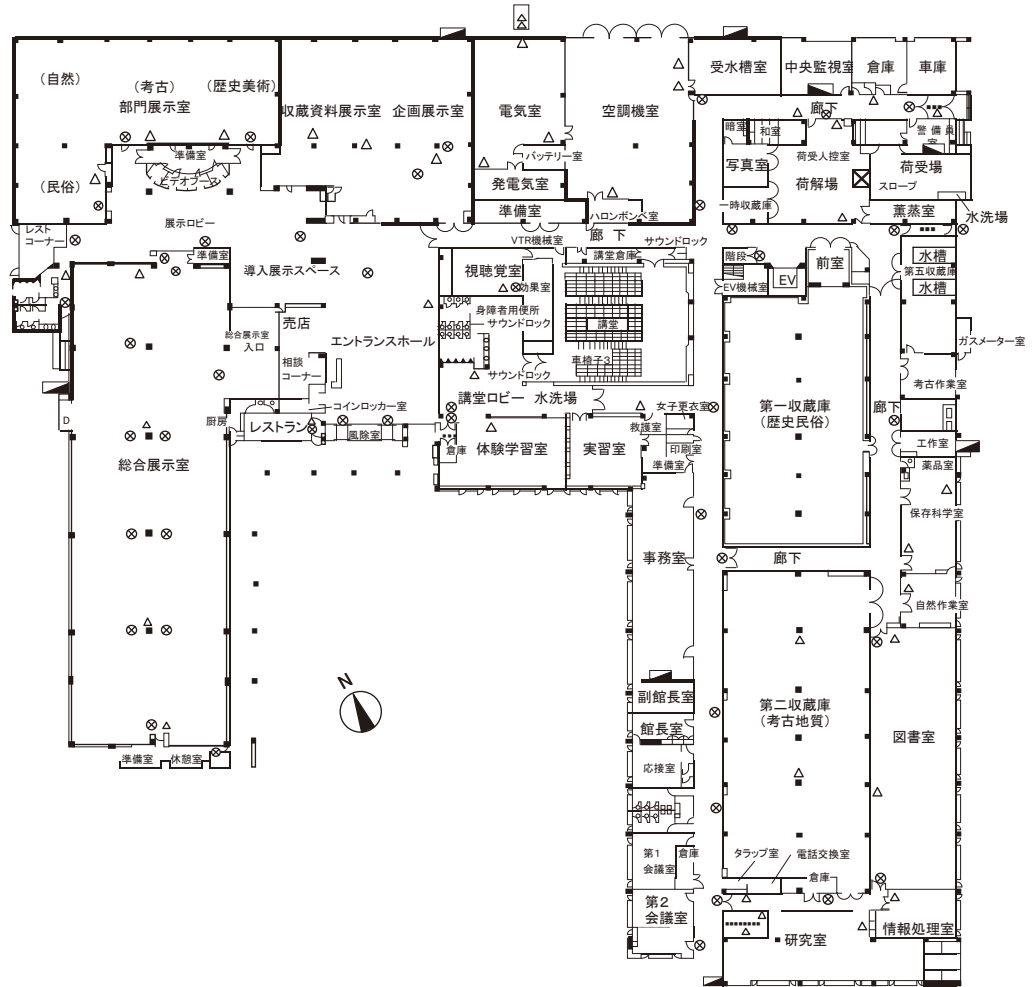
## 2. 設備

<b>電気設備</b>	2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消化設 備の併用、(屋外) 野外消火栓
1. 電気設備	受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA
2. 非常用電源	発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル
3. その他	電話設備、インターホン設備、TV共 同視聴設備、自動火災報知器設備、防 火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非 常用放送設備、ITV監視設備
4. 視聴設備	TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオ放 送機、音響総合ラック
<b>空調設備</b>	<b>昇降機設備</b>
1. 空調方式	油圧式エレベーター定格荷重: 3t1基 油圧式リフト 定格荷重: 2t1基
2. 熱源設備	<b>融雪設備</b>
ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリング ユニット(120RT)	ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根 ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地 面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地 面温度センサーの組み合わせにより自動 運転または手動運転。
<b>衛生設備</b>	<b>監視設備</b>
1. 給水	分散形総合監理制御システムにより、受 電設備・防災設備・熱源設備・空調設 備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制 御及び計測監視を行う。
市水道 受水槽: 50㎡	<b>電話設備</b>
	電子交換外線3回線 内線64回線 <b>火災報知設備</b>
	受信盤P型1級 60回線(自火報) 33回 線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱 感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地 図盤(照光式)により表示
	<b>防犯設備</b>
	電波センサー・電子サイン・ITVを必要 箇所設置し、監視制御システムと併用

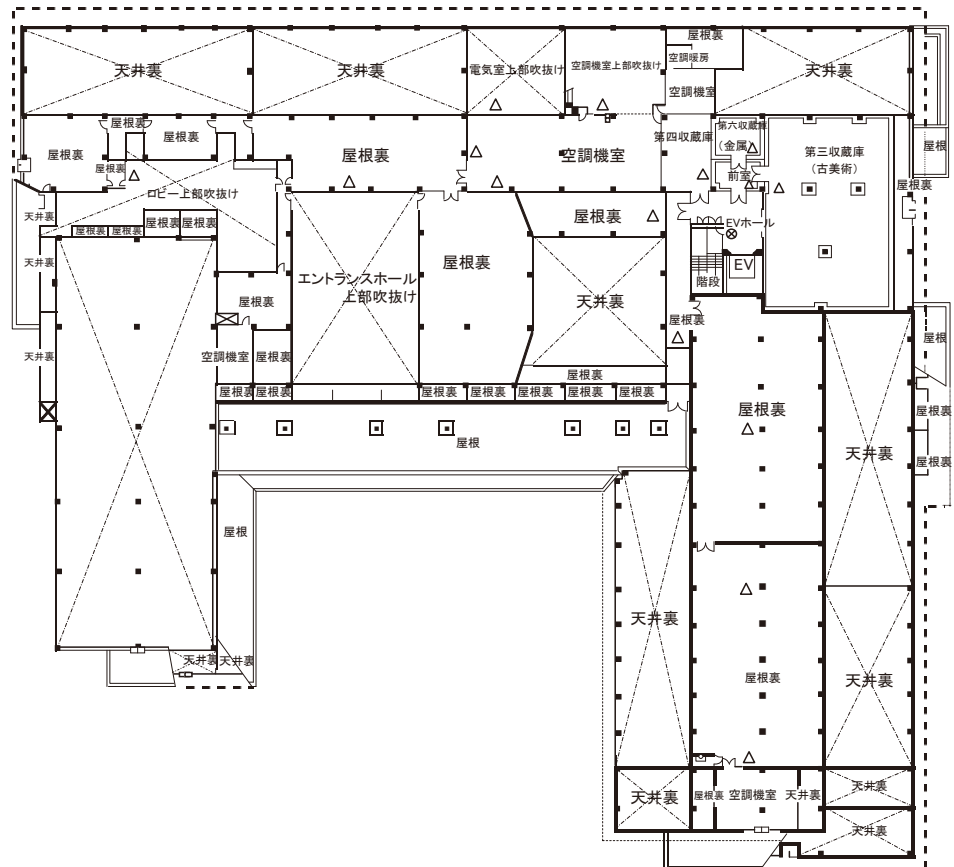


### 3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



施設の概要

各室面積表

室名	面積(m <sup>2</sup> )	備考	室名	面積(m <sup>2</sup> )	備考
収蔵スペース 2,294.8 (m <sup>2</sup> )			応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース 788.3 (m <sup>2</sup> )			機械スペース 1,253.1 (m <sup>2</sup> )		
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース 2,815.1 (m <sup>2</sup> )			ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース 2,507.54 (m <sup>2</sup> )		
教育普及スペース 693.1 (m <sup>2</sup> )			エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース 719.5 (m <sup>2</sup> )			その他	1202.64	
事務室	166.1		計	11071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

## 4. 施設の修理・改築

- 平成 7年 8月 9日 消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
- 平成 8年10月 1日 博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子  
駐車場 2 台分）（～ 9.3.19）
- 平成12年10月27日 給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
- 平成14年 9月12日 博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
- 平成15年 9月19日 非常用蓄電池取替工事（～11.20）
- 10月21日 吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
- 平成16年10月 5日 屋根補修工事（～12.17）
- 12月21日 吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
- 平成17年 7月22日 屋根補修工事（～10.4）
- 平成18年 1月 6日 熱源コントローラー交換工事（～18.3.17）
- スプリンクラーヘッド交換工事（～18.3.17）
- 平成19年 1月 5日 スプリンクラー設備修繕工事（～19.3.23）
- 平成19年 2月 1日 1階床張替え補修工事（～19.3.23）
- 平成19年 2月21日 ウォシュレット取付け工事（～19.3.19）
- 平成21年 1月21日 高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～21.3.24）
- 平成21年 6月 3日 冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～21.12.25）
- 平成21年12月18日 消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
- 平成22年 2月17日 企画展示室改修工事（～22.3.29）
- 平成22年11月16日 中央監視システム更新工事（～23.4.25）
- 平成22年11月26日 空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
- 平成23年 1月20日 空調設備改修工事（～23.4.25）

## 5. 沿革

### 《開館にいたるまで》

- |             |  |
|-------------|--|
| 昭和52年 5月13日 | 文化を考える県民会議の設置  |
| 6～ 8月       | 文化に関する県民意識調査の実施  |
| 昭和53年 1月24日 | 文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告                              |
| 7月26日       | 第1回文化振興会議開催  |
| 昭和54年 2月 2日 | 文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告                                |
| 3月19日       | 文化施設等整備基金条例制定  |
| 4月 1日       | 福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置                                      |
| 12月24日      | 福島県美術品等取得基金条例制定  |
| 昭和55年 4月 1日 | 福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置                                     |
| 昭和56年 1月26日 | 県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける                            |
| 2月 3日       | 県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定                                     |
| 昭和57年 2月18日 | 県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告                     |
| 昭和58年 7月30日 | 建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）<br>展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所） |
| 昭和59年 6月 8日 | 建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による<br>共同企業体）                |
| 7月 7日       | 県立博物館建築工事着工（～61.3.25）                                    |
| 7月10日       | 展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・<br>株丹青社による共同企業体）         |
| 7月13日       | 展示工事着工（～61.9.10）   |
| 昭和61年 3月25日 | 県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定<br>（61.4.1 施行）            |
| 3月31日       | 県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止                                 |
| 4月 1日       | 県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱                    |
| 10月 1日      | 展示解説員19名採用   |
| 10月18日      | 県立博物館開館  |

### 《開館してから》

- |             |  |
|-------------|--|
| 昭和61年11月28日 | 登録博物館の指定（第10号）                                   |
| 昭和63年 8月21日 | 入館者50万人達成  |
| 平成元年 3月10日  | 友の会設立  |
| 平成 2年10月 7日 | 入館者100万人達成                                       |
| 平成 4年 3月31日 | 日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）           |
| 平成 5年 4月 1日 | 展示解説員22名となる                                      |
| 平成 7年 5月 5日 | 入館者200万人達成                                       |
| 平成 8年10月 5日 | 開館10周年記念式典を催す                                    |
| 平成12年10月15日 | 入館者300万人達成                                       |
| 平成13年 1月25日 | 博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される |
| 平成14年 3月25日 | 博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定                |

- 平成15年 3月24日 博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする  
3月28日 高橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催  
3月31日 高橋富雄館長退任  
4月 1日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任  
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
- 平成16年 4月 8日 赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第1回開催
- 平成17年 5月 6日 入館者350万人達成
- 平成18年 9月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
- 平成19年 7月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹―列島の文化北から南から―」を開催
- 平成20年 7月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
- 平成22年 6月26日 県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ―ふくしまの森林文化―」を開催
- 平成23年 3月11日 宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館。
- 平成24年 5月15日 「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
- 平成25年 5月17日 2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催  
11月27日 「博物館ニュース」創刊から400号達成

## VI 利用案内

### ● 開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

### ● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

### ● 観覧料

- ◎常設展 （ ）内は、団体20人以上の料金  
一般・大学生270円（210円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
  - ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）
  - ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料  
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあつては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。
  - ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）
  - ★展示室以外の入館は無料。

### ● 常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）／8月21日（県民の日）

### ● 企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

### ● 交通案内



◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩1分

②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩1分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

## 福島県立博物館年報 第29号

---

平成27年10月3日 印刷

平成27年10月3日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

---

この年報の本文は再生紙を使用しています。

# 福島県立博物館